2020年３月31日

会社名　フィンテック　グローバル株式会社
（コード番号：8789 東証マザーズ）
住所　東京都品川区上大崎三丁目１番１号
目黒セントラルスクエア15階
代表者　代表取締役社長　玉 井 信 光
問合せ先　取締役副社長 上席執行役員 鷲本　晴吾
電話番号　(050) 5864-3978

＜マザーズ＞投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

○開催状況

開催日時　2020年３月30日　15:30～16:30
開催方法　電話会議による開催（機関投資家スモールミーティング）
開催場所　－
説明会資料名　2019年９月期 決算説明資料
2020年９月期 第１四半期 決算説明資料
IR会社説明会資料

【添付資料】

１．2019年９月期 決算説明資料
２．2020年９月期 第１四半期 決算説明資料
３．IR会社説明会資料

以　上

FGI

FinTech Global Incorporated

The firm of innovative financing

2019年9月期
決算説明資料

2019年11月

フィンテック　グローバル株式会社

（東証マザーズ：8789）

http://www.fgi.co.jp/

フィンテック / FinTech (登録5113746)・FinTech Global (登録5811521)・フィンテックグローバル (登録5811522)・FGI (登録5113748)は、
フィンテック グローバル株式会社の登録商標です。

2019年9月期　連結業績概況

投資銀行事業

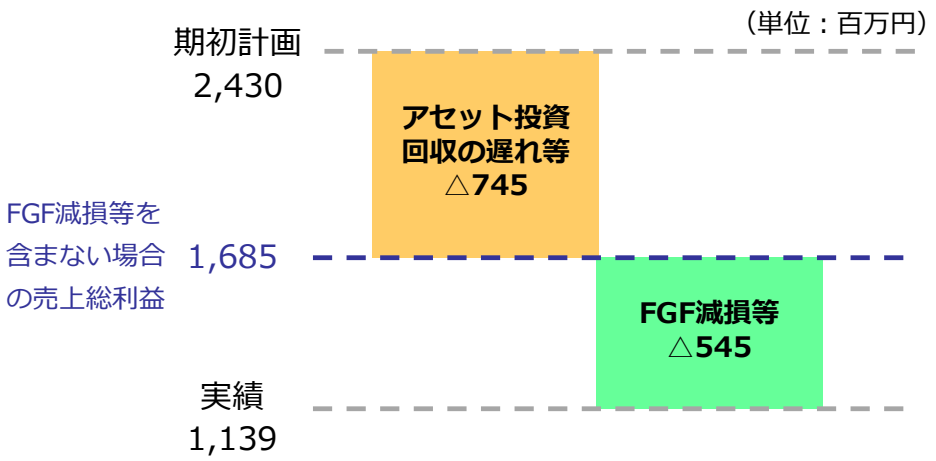
売上高、売上総利益

（注）セグメント間取引を含む数値を使用。

売上高	**3,393百万円**	前期比	+256百万円　（+8.2%）
		期初計画比	△676百万円（△16.6%）
売上総利益	**1,139百万円**	前期比	△896百万円（△44.0%）
		期初計画比	△1,290百万円（△53.1%）

期初計画比での売上総利益の減少要因は、ベンチャーファンド（FGF)の減損等545百万円、およびアセット投資回収の遅れ等。

売上総利益 －期初計画からの減少要因－



FGF減損等の詳細

上半期減損/評価損	360百万円
下半期減損	185百万円 （うち4Qは180百万円※）
合計	545百万円

※ファンド期限が迫っていることから、投資回収に至っていない案件を減損。
ファンド終了後も、利益獲得機会がある案件については収益化を図っていく。

Copyright© FinTech Global Incorporated

2019年9月期　連結業績概況

エンタテインメント・サービス事業

売上高、営業損益

（注）セグメント間取引を含む数値を使用。

売上高	**5,407百万円**	前期比	+5,278百万円（+4,079.3%）
		期初計画比	△1,092百万円（△16.8%）
営業損益	**△423百万円**	前期比	+543百万円（－%）
		期初計画比	△　903百万円（－%）

営業損失となった理由

①開業前
1Q、2Qは、メッツァ開業準備費用等により営業費用が売上高を上回り、損失計上。

②春の行楽シーズン
3Qの4,5月は、計画を大幅に上回った結果、黒字転換。

③夏休みシーズン
4Qは、夏休みシーズンに4,5月と同様の来場者数を見込み、3Qと同程度まで人員を配置。万全の準備を整える。

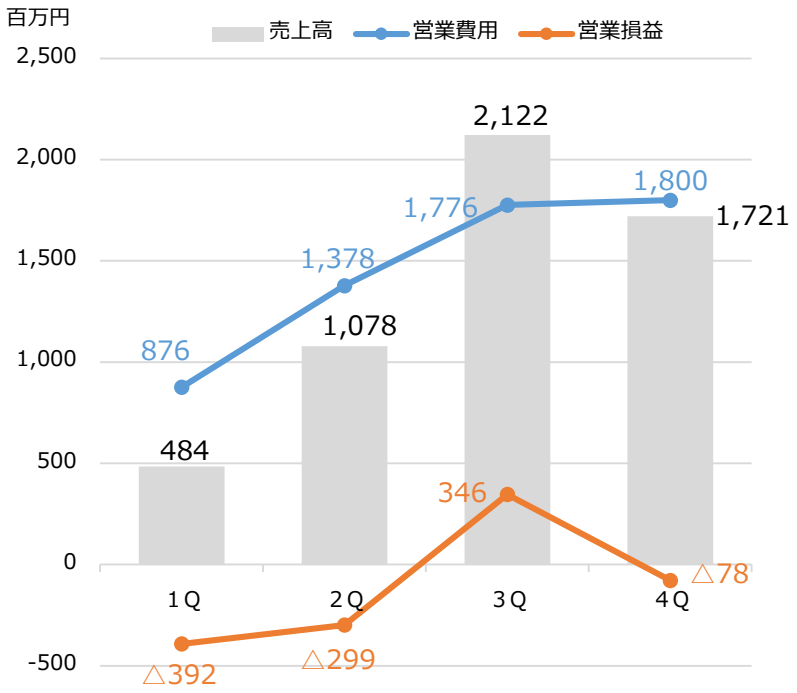
しかしながら、7,8月は天候不順により来場者数は見込みより大幅に少なくなり、売上高は減少。

営業費用は３Qと同程度の高止まりしたままとなり、営業損益を大きく圧迫する結果となった。

④3月開業後の下半期では、268百万円の営業利益
開業初年度で減価償却費が増加した※にも関わらず、3Q・4Qをトータルで見ると営業損益はプラスとなった。

※主要な設備は定額法だが、一部資産は定率法で償却しているため、初年度は償却額が多くなる傾向があります。
（当該事業の減価償却費 前期1百万円→当期554百万円）

エンタテインメント・サービス事業 四半期業績推移



Copyright© FinTech Global Incorporated

連結業績ハイライト

【単位：百万円】

	2018/9期	2019/9期					増減額（前期比）	増減率（前期比）	当初（2018/11/8）発表予想	前回（2019/10/4）発表予想
		1Q	2Q	3Q	4Q	4Q累計				
売上高	3,689	1,020	2,257	3,411	2,486	9,175	5,485	148.7%	11,040	9,109
売上総利益	2,261	455	495	1,324	669	2,944	683	30.2%	6,880	―
営業利益	△1,072	△747	△720	160	△356	△1,664	△592	―	510	△ 1,631
経常利益	△1,227	△804	△762	121	△404	△1,850	△623	―	310	△ 1,844
親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益	△820	△599	△645	34	△376	△1,586	△766	―	―	△ 1,541
償却前営業利益	△974	△679	△568	416	△104	△935	39	―	―	―

（注）償却前営業利益は、営業利益に売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費及びのれん償却費を足し戻して算出しております。

Copyright© FinTech Global Incorporated

セグメント別業績 - 1

【単位：百万円。各セグメントの売上高などは他のセグメントとの取引を含む。】

報告セグメント		2018/9期 4Q累計	2019/9期 1Q	2Q	3Q	4Q	4Q累計	前期比（累計期間）	主な連結会社
投資銀行事業	売上高	3,137	405	975	1,230	**782**	3,393	256	当社、フィンテックアセットマネジメント フィンテックグローバルトレーディング フィンテックM＆Aソリューション FGIキャピタル・パートナーズ,SGI-Group
	売上総利益	2,035	249	130	466	**293**	1,139	△896	
	営業利益	880	△128	△276	26	△**100**	△478	△1,359	
公共コンサルティング事業	売上高	457	182	263	148	**79**	673	215	パブリック・マネジメント・コンサルティング ジオプラン・ナムテック
	売上総利益	214	88	149	78	**47**	364	149	
	営業利益	△60	10	65	△3	**6**	79	140	
エンタテインメント・サービス事業	売上高	129	484	1,078	2,122	**1,721**	5,407	5,278	ムーミン物語 ライツ・アンド・ブランズ 飯能地域資源利活用合同会社 虎ノ門ハム
	売上総利益	45	131	228	808	**376**	1,545	1,499	
	営業利益	△966	△392	△299	346	△**78**	△423	543	
その他	売上高	37	7	13	3	**-**	24	△12	アダコテック
	売上総利益	36	7	13	3	**-**	24	△12	
	営業利益	△6	△4	0	△8	**-**	△12	△5	
調整額（セグメント間取引消去又は全社費用）	売上高	△72	△60	△73	△93	△**97**	△324	△251	
	売上総利益	△71	△21	△26	△32	△**48**	△128	△57	
	営業利益	△919	△232	△210	△201	△**185**	△829	89	
連結ＰＬ計上額	売上高	3,689	1,020	2,257	3,411	**2,486**	9,175	5,485	
	売上総利益	2,261	455	495	1,324	**669**	2,944	683	
	営業利益	△1,072	△747	△720	160	△**356**	△1,664	△592	

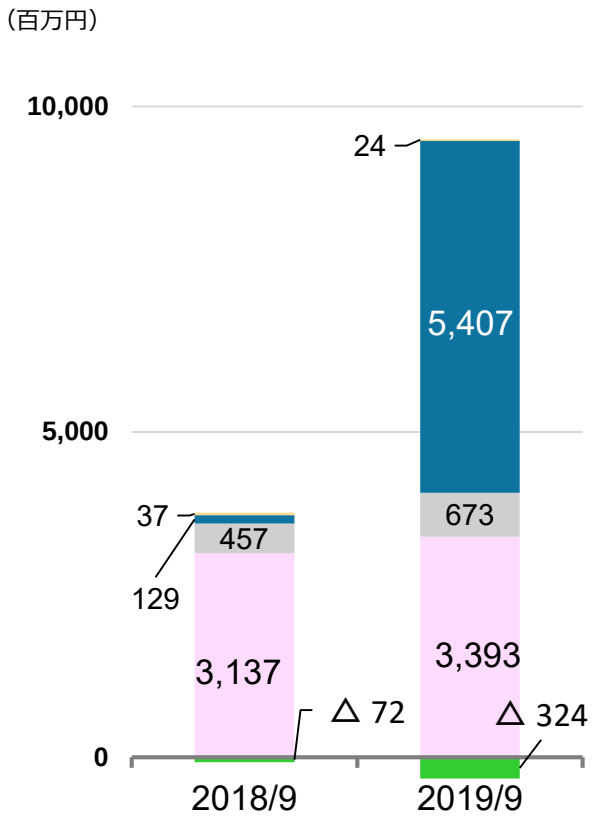
- SGI-Group B.V.及びその子会社は、2018年9月期第2四半期より連結
- フィンテックM＆Aソリューション㈱、㈱ジオプラン・ナムテックは、2018年9月期第3四半期より連結
  （㈱ジオプラン・ナムテックは2019年9月期期第4四半期期首に連結除外）
- ㈱ライツ・アンド・ブランズは、2019年9月期第1四半期より連結
- ㈱アダコテックは2019年第3四半期末に連結除外

・調整額（営業利益）(2019年9月期4Q累計は△829百万円）には、セグメント間取引消去（2019年9月期4Q累計は241百万円）及び報告セグメントに配分していない全社費用（2019年9月期4Q累計は△1,071百万円）を含む。全社費用は合理的な配分が難しいなどの理由により報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

Copyright© FinTech Global Incorporated

セグメント別業績 - 2

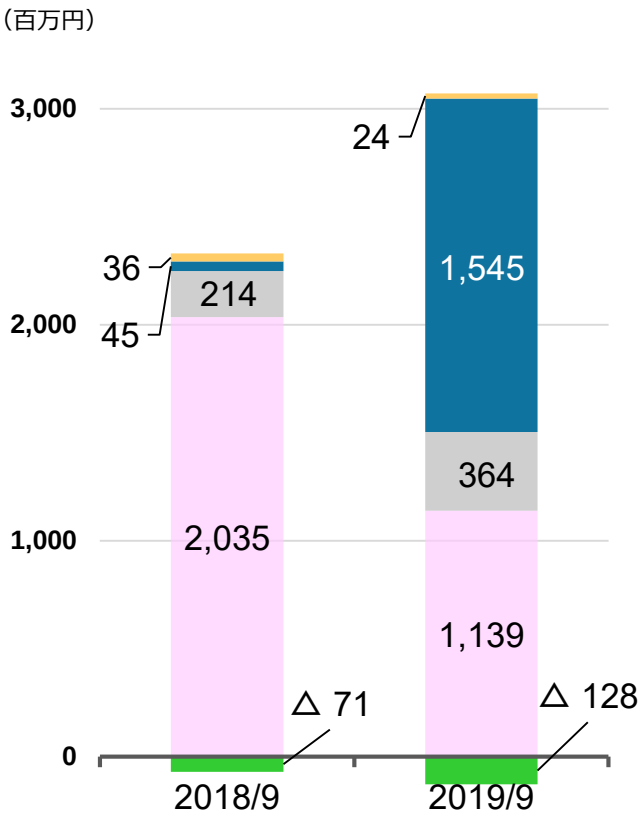
売上高



3,689　9,175

148.7%増

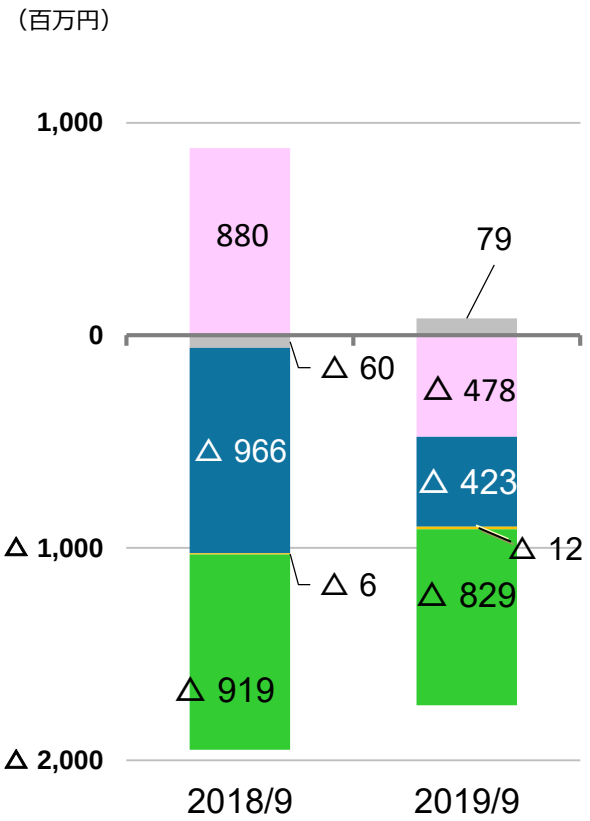
売上総利益



2,261　2,944

30.2%増

営業利益



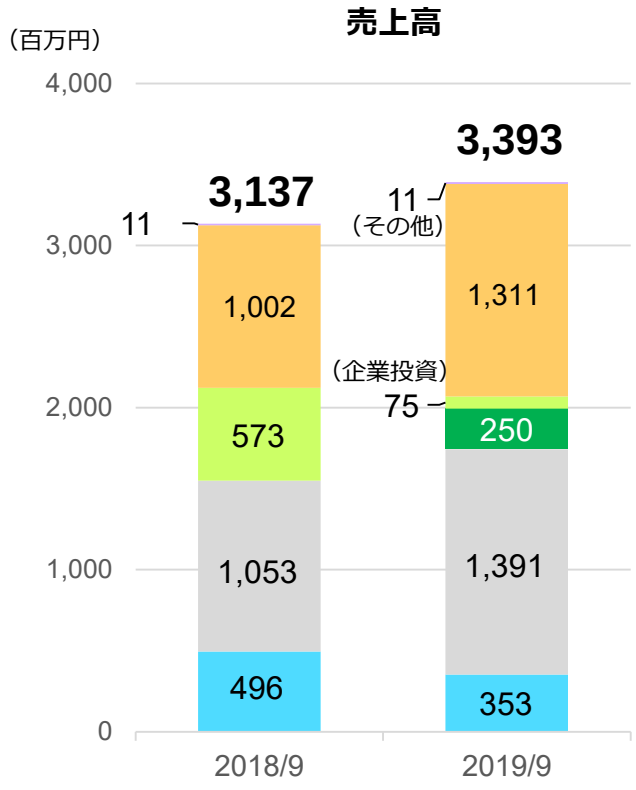
△1,072　△1,664

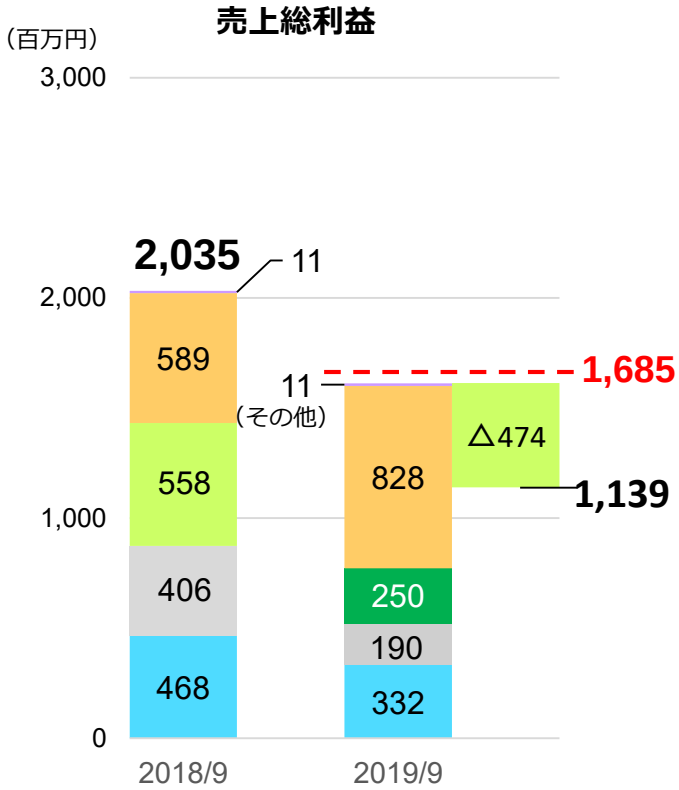
（注）セグメント別内訳は、他のセグメントとの取引を消去しない数値を使用。

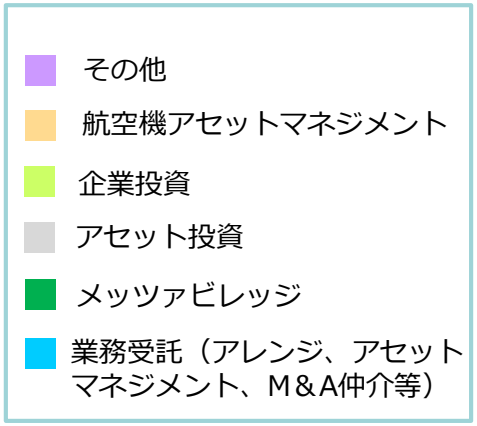
投資銀行事業　公共コンサルティング事業　エンタテインメント・サービス事業　その他　全社費用または取引消去

Copyright© FinTech Global Incorporated

投資銀行事業セグメント－業務別売上高、売上総利益







（注）エンタテインメント・サービス事業から投資銀行事業が受け取るメッツァビレッジの賃料などの**セグメント間の内部売上高は、消去しない数値**を使用。

企業投資の減損等により、売上総利益は前年同期比53.1%減

- 業務受託による手数料売上は、不動産AM・仲介は減少するも、M&A仲介が増加する。
- ムーミン物語に対するメッツァビレッジのマスターリースによる売上を計上（メッツァビレッジ）。
- アセット投資は回収増により売上増加するも、利益率は低下。
- 企業投資はFGFの新薬開発プロジェクト成功による売上があるも、同ファンドで545百万円の減損等計上。
- 前期2Qから連結した子会社による航空機アセットマネジメントは、堅調に推移。

Copyright© FinTech Global Incorporated

エンタテインメント・サービス事業　セグメント業績

・売上高はメッツァ開業とライセンス子会社連結により、前期比52億円増加。
　メッツァの夏場の集客が伸びず、期初計画の65億円には届かず。

・開業（2Q）までの費用や減価償却費の負担が重く、セグメント損失が継続。

・ライセンス事業ではムーミン展の全国巡回の協力（10月末の通算来場者20万人）や
　ムーミンのアニメ放映権販売により認知度とブランドバリューの更なる向上を目指す。

（単位：百万円）

PL項目・内訳	2018/9	2019/9	増減額
売上高	129	5,407	+5,278
メッツァ関連	64	3,998	+3,933
ライセンス収入・アニメ映像権収入	―	1,353	+1,353
その他	64	55	△ 9
売上原価	84	3,862	+3,778
売上総利益	45	1,545	+1,499
販売費及び一般管理費	1,012	1,968	+956
セグメント利益	△ 966	△ 423	+543
償却前セグメント利益	△ 965	216	+1,182

（注）1　他のセグメントとの取引を消去しない数値を使用。
　　2　償却前セグメント利益は、セグメント利益に売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費及びのれん償却費を足し戻して算出。

Copyright© FinTech Global Incorporated

投融資残高の推移（FGI,FGT合計）

メッツァビレッジの引渡しと、不動産小口化商品組成のためのSPCへの出資等により、前期末比24.4%増

2019年9月期 (2018/10～2019/9)の主な変動要因）

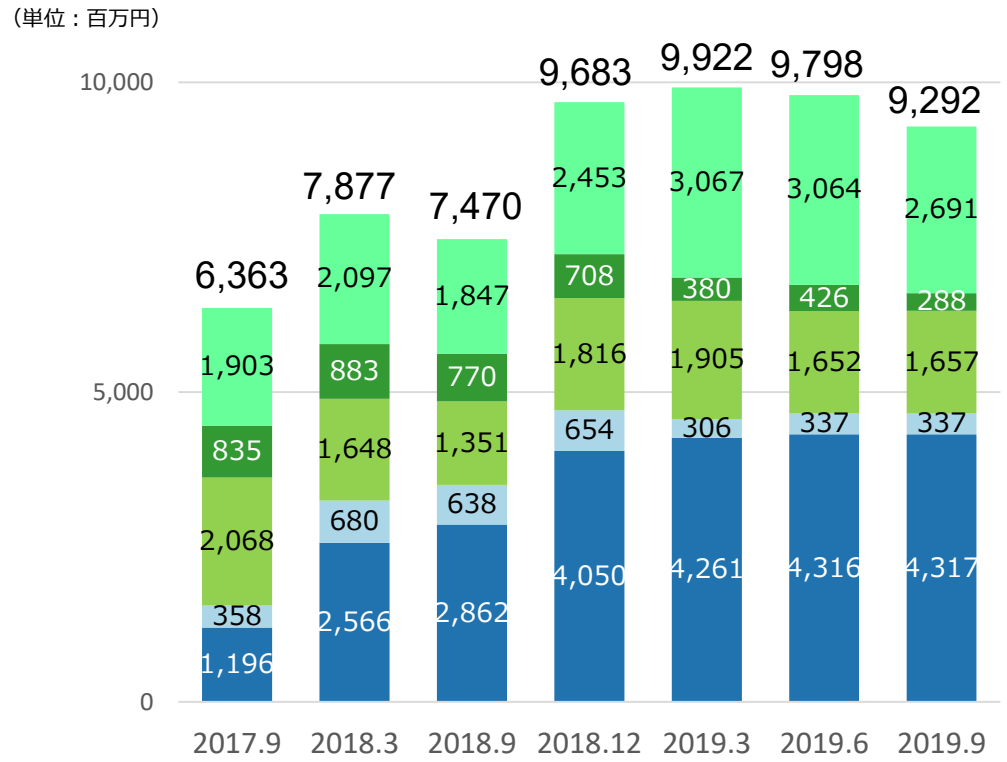
・プリンシパルインベストメント　不動産小口化商品組成のためにSPCへ出資。企業投資も実行(2Q)。
ファンド経由でムーミン物語へ追加投資(1Q)。

・ベンチャーキャピタルファンド　FGFの出資先で減損(1Q～4Q) 。残高は約1.8億円となる。
ライフサイエンス分野を投資対象とするファンドに新規投資（3Q)。

・企業融資　飯能地域資源利活用合同会社へ貸付実行により増加(1Q)。

・不動産等（メッツァ）　メッツァビレッジの引渡しと、追加工事により増加（1Q～3Q)。

当社(FGI)、フィンテックグローバルトレーディング（FGT）の投融資合計額（子会社への出資を含む）



（注）FGI、FGT間の出資・貸付は、含めず。

プリンシパルインベストメント
ベンチャーキャピタルファンドへの投資を除く営業投資有価証券、投資有価証券、関係会社株式、関係会社出資金、出資金の合計額。

ベンチャーキャピタルファンド
（FinTech GIMV Fund等への投資）

企業融資
営業貸付金、子会社への短期貸付金の合計額。全額引当している債権は含めないが、子会社貸付は全額計上。

不動産等(投資銀行事業)
投資銀行事業における運用不動産、開発用不動産。BSでは仕掛販売用不動産・販売用不動産に計上。

不動産等(メッツァ)
メッツァにおける不動産。
メッツァビレッジの不動産は仕掛販売用不動産・販売用不動産に計上。ムーミンバレーパークの土地は、法的には地域SPCに譲渡しているが会計上は当社固定資産に計上しているため、当該金額に含めている。

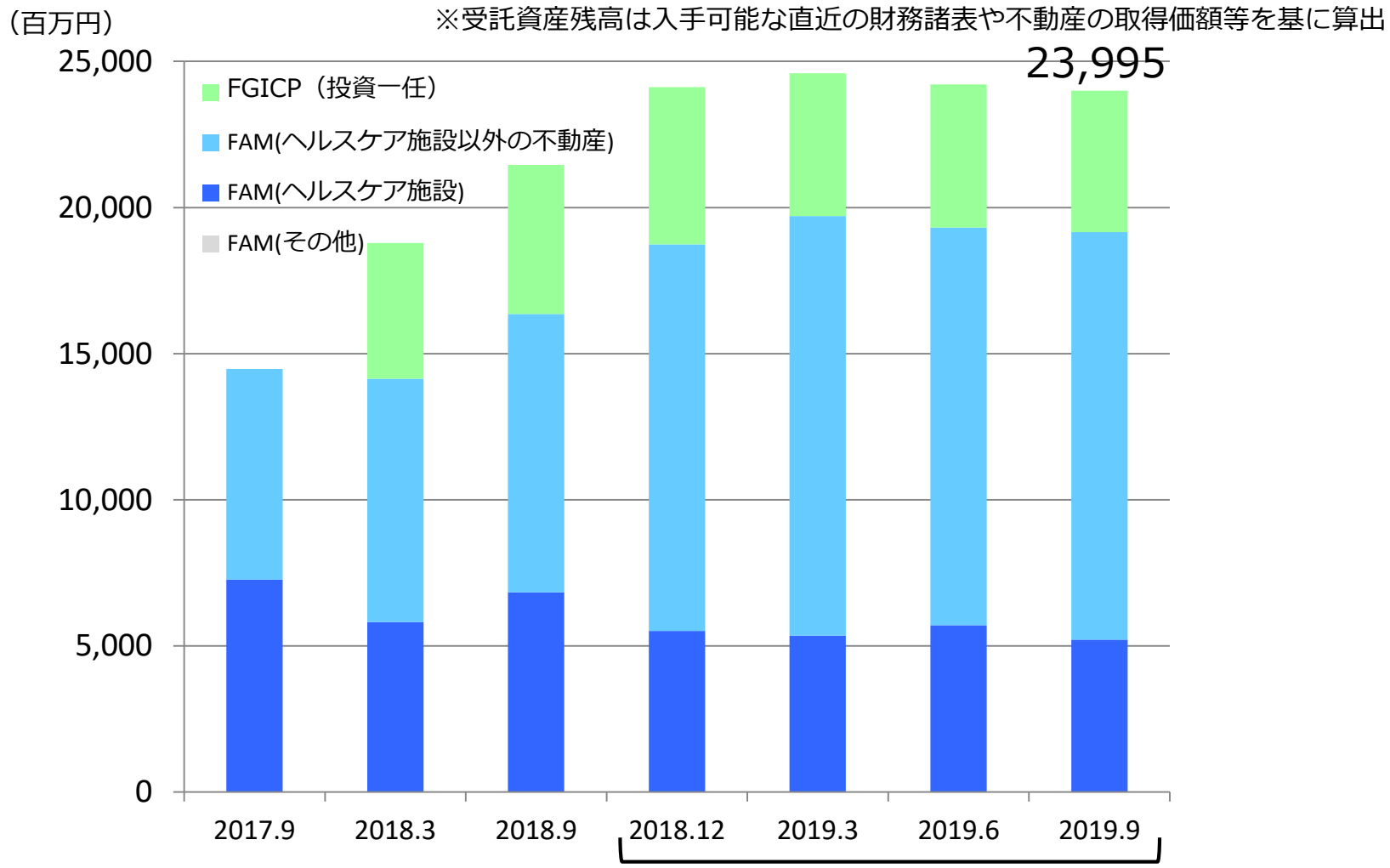
Copyright© FinTech Global Incorporated

受託資産残高の推移

フィンテックアセットマネジメント（FAM）
FGIキャピタル・パートナーズ　（FGICP）

ヘルスケア施設の案件は、物件の一部売却により減少。一方で、開発型案件の工事が進捗と、不動産小口化商品組成に係るアセットマネジメント受託による増加があり、グループの受託資産残高は前期末比11.8%増加。

※ヘルスケア施設：高齢者向け住宅を主とする施設
※受託資産残高は入手可能な直近の財務諸表や不動産の取得価額等を基に算出



Copyright© FinTech Global Incorporated

連結貸借対照表

（単位： 千円）

資産の部

	18年9月期	19年9月期	増減
流動資産	9,879,178	10,438,589	559,410
現金及び預金	4,267,738	2,533,187	△ 1,734,550
受取手形・売掛金	644,824	727,499	82,674
1 営業投資有価証券	1,017,184	1,359,941	342,757
営業貸付金	576,924	548,625	△ 28,299
2 販売用不動産	304,516	4,211,988	3,907,472
2 仕掛販売用不動産	2,781,914	700	△ 2,781,214
商品	15,298	208,577	193,279
その他	388,011	947,710	559,699
貸倒引当金	△ 117,232	△ 99,641	17,591
固定資産	4,137,093	8,586,424	4,449,331
3 有形固定資産	3,317,713	7,283,853	3,966,139
4 無形固定資産	343,188	724,929	381,741
投資その他の資産	476,191	577,641	101,450
資産合計	14,016,272	19,025,014	5,008,741

負債の部

	18年9月期	19年9月期	増減
流動負債	4,802,029	3,010,093	△ 1,791,936
支払手形・買掛金	293,215	213,256	△ 79,958
短期借入金	—	373,904	373,904
5 1年内返済予定の長期借入金	3,586,081	752,968	△ 2,833,113
リース債務	698	215,881	215,183
未払法人税等	73,216	98,999	25,783
賞与引当金	114,928	157,244	42,315
その他	733,889	1,197,838	463,948
固定負債	663,091	7,141,750	6,478,659
5 長期借入金	532,787	6,086,260	5,553,473
6 リース債務	2,215	807,524	805,308
繰延資産負債	3,001	113,189	110,187
退職給付に係る負債	91,640	94,633	2,993
その他	33,446	40,143	6,697
負債合計	5,465,120	10,151,843	4,686,723

純資産の部

株主資本	7,313,879	7,480,064	166,185
7 資本金	5,551,419	6,461,911	910,492
7 資本剰余金	4,149,561	5,015,924	866,362
利益剰余金	△ 2,387,101	△ 3,997,770	△ 1,610,669
その他の包括利益累計額	△ 2,588	△ 33,493	△ 30,905
新株予約権	54,605	65,837	11,231
非支配株主持分	1,185,254	1,360,762	175,507
純資産合計	8,551,151	8,873,170	322,018
負債純資産合計	14,016,272	19,025,014	5,008,741

1 ファンド投資が減損するも、企業投資実行、及び信託受益権化した不動産を保有するSPCの子会社化により増加。

2 メッツァビレッジ、及びその他の不動産開発案件の竣工等により、販売用不動産が増加。（一部は、仕掛販売用不動産から販売用不動産に振替。）

3 メッツァビレッジ、ムーミンバレーパークが竣工。内外装工事も引渡しを受けて増加。

4 RBJ新規連結により、同社保有ののれん、アニメ放映権が増加。

5 2017年締結の契約に従い、2018年10月に地域SPCが既存借入を返済し、56億円の長期ローンを調達。

6 ムーミンバレーパークの内外装工事資金をリースで調達。

7 主に第19回新株予約権の権利行使により増加。

連結損益計算書

（単位： 千円）

	2018年9月期	売上比		2019年9月期	売上比	増減額	増減率
売上高	3,689,183	100.0%		9,175,148	100.0%	5,485,964	148.7%
売上原価	1,427,968	38.7%	1	6,230,430	67.9%	4,802,462	336.3%
売上総利益	2,261,215	61.3%		2,944,717	32.1%	683,501	30.2%
販売費及び一般管理費	3,333,458	90.4%	2	4,609,288	50.2%	1,275,829	38.3%
営業損失（△）	△ 1,072,243	△ 29.1%		△ 1,664,571	△ 18.1%	△ 592,327	―
営業外収益	12,706	0.3%		11,896	0.1%	△ 810	△ 6.4%
営業外費用	168,020	4.6%	3	198,009	2.2%	29,989	17.8%
経常損失（△）	△ 1,227,557	△ 33.3%		△ 1,850,684	△ 20.2%	△ 623,126	―
特別利益	301,367	8.2%	4	203,367	2.2%	△ 97,999	△ 32.5%
特別損失	40,192	1.1%		20,386	0.2%	△ 19,806	△ 49.3%
税金等調整前当期純損失（△）	△ 966,383	△ 26.2%		△ 1,667,703	△ 18.2%	△ 701,320	―
法人税等合計	29,789	0.8%		63,865	0.7%	34,075	114.4%
当期純損失（△）	△ 996,173	△ 27.0%		△ 1,731,569	△ 18.9%	△ 735,395	―
非支配株主に帰属する当期純損失（△）	△ 176,068	△ 4.8%		△ 144,897	△ 1.6%	31,170	―
親会社株主に帰属する当期純損失（△）	△ 820,104	△ 22.2%		△ 1,586,671	△ 17.3%	△ 766,566	―

1 メッツァ開業による物販・飲食の商品・材料仕入、諸経費、労務費と、新規連結したムーミンのライセンス子会社のライセンス料の支払いを売上原価に計上。2018年9月期2Q以降に連結したSGI（航空機アセットマネジメント）、ライツ・アンド・ブランズ（ムーミンライセンス事業）等によっても売上原価が増加。企業投資で減損545百万円を計上。

2 メッツァ関連の人件費（メッツァビレッジ、ムーミンバレーパーク運営の人件費は、それぞれの開業後は売上原価に計上）、広告宣伝費、その他諸経費が増加。また2018年9月期2Q以降に連結したSGI、ライツ・アンド・ブランズ等の費用が増加。
投資銀行事業では、人員増強による人件費や案件組成費用が増加。

3 メッツァ関連の借入、リース等により、支払利息が71百万円増加し143百万円に。

4 ㈱アダコテックの第三者割当増資等による持分変動利益120百万円、及び関係会社株式売却益76百万円。

Copyright© FinTech Global Incorporated

中期経営計画の見直し、今後の方針等

Copyright© FinTech Global Incorporated

中期経営計画の見直し・業績予想

体制の変更や経営戦略の見直しを踏まえ、中期経営計画を見直し 2020年3月頃を目途に策定、公表

2018/5/28公表の2020/9期を最終年度とする３ヶ年の経営計画（中期経営計画）の見直しを決定

（見直しの理由）
投資銀行事業・・・アセット投資の回収見込に相違が生じる
メッツァ・・・・・開業前の想定から変化が生じる

体制の変更や経営戦略の見直しを進めており、中期経営計画を見直すことにする。

投資銀行事業

以下の事項を主な課題として、2020/3頃までにその対応を完了。

・投資回収の見込時期の再精査

・経営戦略、取組方針の再構築等

エンタテインメント・サービス事業（メッツァ運営）

・2020/3にムーミンバレーパーク開業１周年。１年間の運営実績に基づく計画策定が可能となる。

・2019/11から2020/3までの駐車料金　平日無料（土日祝は最大1,500円）キャンペーンや、今後実施予定である入園及びアトラクションチケットプランの券種改定効果の見極めも可能になる。

2020/9期の業績予想は、上記の中期経営計画とともに開示させていただきます。

Copyright© FinTech Global Incorporated

企業統治、経営戦略を見直し、抜本的な改革を推進する

重点取組

1．コーポレート・ガバナンスの強化

監査等委員会設置会社への移行　・・P15

2．投資銀行事業

（1）ブティック型投資銀行への原点回帰　・・P16

（2）投資アセットの回収に向けた管理の強化　・・P17

（3）地方創生に資する証券化・企業投資・アセット投資　・・P18

・事業承継（M&A）の取組強化

（4）コスト削減　・・P19

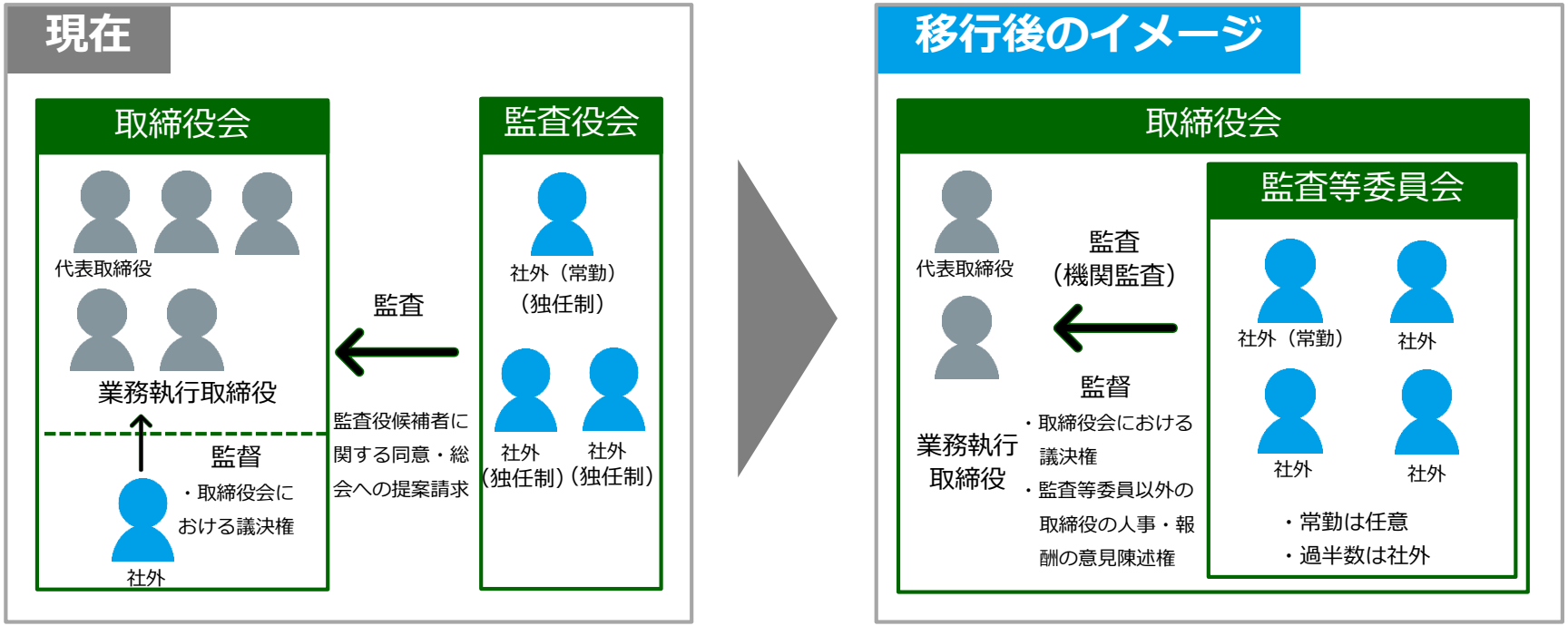
3．エンタテインメント・サービス事業

メッツァ　現状と課題、今後の方針と施策　・・P20

Copyright© FinTech Global Incorporated

コーポレートガバナンスの強化　－監査等委員会設置会社への移行－

社外取締役を中心とする監査等委員会が経営を監視する監査等委員会設置会社へ移行



取締役会の過半数を社外取締役とする予定

（注）本移行については、2019年12月に開催予定の定時株主総会において承認されることを条件に実施します。

Copyright© FinTech Global Incorporated

ブティック型投資銀行への原点回帰

ブティックのように、顧客ニーズに合わせた
オーダーメイドのソリューションを提供

ブティック型投資銀行の原点に立ち返り、活動を強化

・商品設計においては、対象事象や内容、特性、属性等を個別具体的に徹底して吟味し、顧客ニーズに即した商品組成、設計を行う。（オルタナティブ投資商品等）

・新しい分野への取組みも積極的に行い、同種事例や類似性がない案件にもチャレンジする。
一例として、セキュリティトークンを用いたSTO※による不動産証券化の実証実験を実施。＜2019年10月～2020年1月末（予定）＞

※STO (セキュリティ・トークン・オファリング)
株式や債券などの有価証券やファンドの持分などをブロックチェーン上でセキュリティトークン化し発行することによる新たな資金調達方法。有価証券の発行となるため、各国の証券取引法を遵守することになる。

Copyright© FinTech Global Incorporated

投資アセットの回収に向けた管理の強化

アセット投資・企業投資とも、管理・回収を強化

投資戦略本部、ポートフォリオ管理部を新設。　（2019/10/1付組織変更）

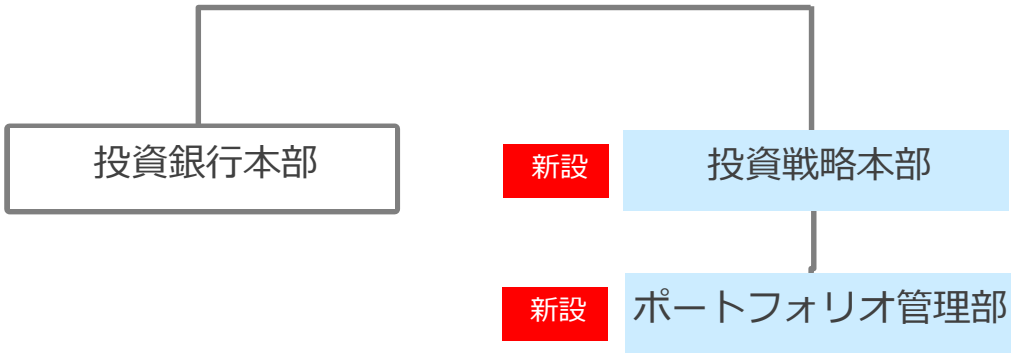
- 投資戦略本部　　投融資管理を含めた投資戦略を専門的に扱う。
- ポートフォリオ管理部　　投資戦略本部の直下で投融資管理を行う。

①投融資先の価値向上のためのモニタリングを強化

→投融資先の状況を早く深く把握することで、価値向上に向けた早期対応を行う。

②回収計画の状況を管理

→アセット回収、企業投資回収計画とモニタリングの状況を照らし合わせ、回収実現に向けた動きを加速させる。



Copyright© FinTech Global Incorporated

地方が抱える課題を解決することをミッションに取組強化

1. 証券化

耐震補強、中心市街地活性化、老朽施設改修、遊休地利活用など、地方が抱える課題解決の手法として地方創生に資する証券化業務を引き続き推進。

2. 企業投資・アセット投資

地域社会への貢献度が高く、バリューアップが期待できる企業やアセットの発掘・選別を強化。バリューアップ施策を講じ、投資回収を早めて投資効率を高める。

3. 事業承継（M&A)

<ネットワークの活用>

一般社団法人地方公会計研究センターを通じた税理士・会計士ネットワークや、これまでの取引で培ってきた地域金融機関や地方公共団体とのネットワークを活かし、事業承継に取り組む。

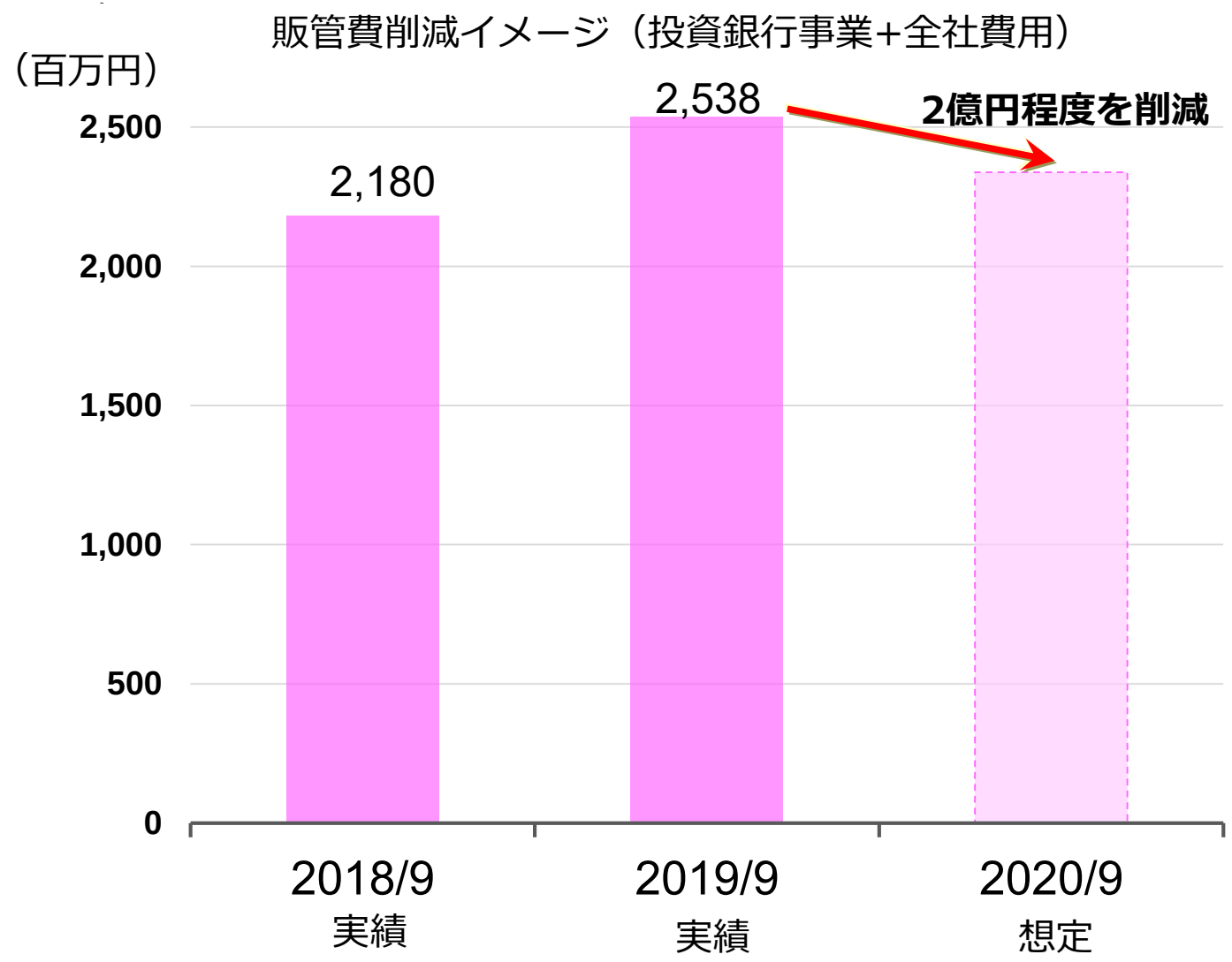
<フィンテック事業承継ファンドの活用>

事業承継問題を抱える企業の株式をファンドで一時保有することで後継者が準備する時間を確保するなど、顧客ニーズに合致したM&Aの推進を強化。

Copyright© FinTech Global Incorporated

コスト削減

グループ会社の重複業務を整理、効率化。人件費も見直し。



Copyright© FinTech Global Incorporated

メッツァ　現状と課題、今後の方針と施策　①

1．施設、運営関連

項目	現状・課題	今後の方針・施策
コンセプト	・宮沢湖の自然を活かし、北欧と埼玉・飯能の魅力を掛け合わせた新しい施設として認知。 ・ペットと一緒に楽しめる施設として評価。	コンセプト維持。 さらなる施設拡充の検討を進める。
アクセス 駐車場	・公共交通機関と密に連携。 ・渋滞対策として駐車場予約システム導入。最近の渋滞懸念は後退。	渋滞懸念後退により、利用促進策として駐車料金平日無料キャンペーン実施。 【P22参照】
アトラクション料金体系	・ムーミンバレーパークは入園料とアトラクション利用料をそれぞれ設定。	入園及びアトラクションチケットプランの券種改定（12/1～） 詳細は後日公表。
環境演出	・ムーミンの物語を追体験できるアトラクション、物販、飲食等を配置。	ムーミンの物語の魅力発見のため、物語の解説等を充実。 リピート創出。
設備投資 次期開発	・コンテンツ拡充 開発計画の策定と実行。	今後のコンテンツへの投資、施設開発計画を2020/9期上半期に策定予定。

Copyright© FinTech Global Incorporated

メッツァ　現状と課題、今後の方針と施策　②

2．マーケティング関連

項目	現状・課題	今後の方針・施策
ターゲット	・開業前の想定ターゲット層より、幅広い層の方にご来園いただいている。	ターゲットの再設定。 インバウンドの積極取込。
ムーミン・ブランディング	・国内ライセンス管理を行うRBJを子会社化。 ・国内のムーミンブランド戦略を一体推進できる体制を構築。	RBJが運営するムーミン公式サイトとの一体プロモーション、共同商品開発などの実行。
イベント	・チームラボイベントで冬季集客とメッツァの認知拡大を実現。 ・話題性のあるイベントの継続が課題。	季節に合わせ、来園を促進するイベントの継続実施。 【P23参照】

Copyright© FinTech Global Incorporated

メッツァ　現状と課題、今後の方針と施策　③

駐車料金 平日無料※（土日祝は最大1500円）キャンペーン

※キャンペーン前は最大、平日1,500円、土日祝2,500円

詳細は、メッツァ公式サイトをご覧ください。

- 交通渋滞の懸念が後退。
- 気軽にご来園しやすい環境整備の一環として、2019/11～2020/3の期間限定のキャンペーンを実施中。
- 土日祝はメッツァビレッジ内で、合計5,000円以上のお食事やお買い物などをご利用いただくと、駐車料金は無料。
- 11月1日からの来園者数の初動は、平日、土日祝とも順調に推移。

（注）上記料金はいずれも税込です。

Copyright© FinTech Global Incorporated

メッツァ　現状と課題、今後の方針と施策　④

イベント開催の強化

メッツァ公式サイト イベント情報　https://metsa-hanno.com/event/

・魅力的なイベントを開催し、メッツァの認知度・リピーター拡大

2019/9期開催の主なイベント

チームラボ 森と湖の光の祭



metsä Valentine



森と、湖と、アンブレラと



～星降るmetsä ～
「Nordic Sky プラネタリウムスペース」



～星降るmetsä ～
「ムーミンバレーパークの星空観賞会」



ムーミンの日



開催中のイベント

「ムーミンバレーパークのハーベスト
（秋の収穫祭）



「メッツァビレッジ」のクリスマス
～北欧の森とクリスマスマーケット～



今後開催予定のイベント

WINTER WONDERLAND in MOOMINVALLEY PARK
EMPOWERED BY CALAR .ink
(2019/11/30～2020/3/8)



© Moomin Characters ™

Copyright© FinTech Global Incorporated

当期配当、次期配当見込み

【基本方針】
経営基盤の強化と拡大する事業を迅速かつ確実に捉えるために、十分な内部留保金を維持することに留意しつつ、株主の皆様に利益を還元することが配当政策上重要であると考え、業績の状況や将来の事業展開などを総合的に勘案して配当することを基本としています。

【当期配当】
配当原資である個別貸借対照表のその他利益剰余金が△２,402百万円となっております。このため、誠に遺憾ではございますが、期末配当は見送りとさせていただきます。

【次期配当】
次期の期末配当は、今後の業績動向を見極めた上で、判断していく方針のため、未定とさせていただきます。

業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

Copyright© FinTech Global Incorporated

連結経営指標等の推移

		2014年 9月期	2015年 9月期	2016年 9月期	2017年 9月期	2018年 9月期	2019年 9月期
売上高	(百万円)	3,911	5,429	7,485	7,182	3,689	9,175
売上総利益	(百万円)	2,398	2,495	1,496	1,626	2,261	2,944
営業利益又は営業損失(△)	(百万円)	555	115	△ 1,031	△ 1,319	△ 1,072	△ 1,664
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	684	237	△ 1,369	△ 1,341	△ 1,227	△ 1,850
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	(百万円)	923	224	△ 1,384	△ 1,358	△ 820	△ 1,586
純資産	(百万円)	5,534	7,879	6,312	5,326	8,551	8,873
総資産	(百万円)	7,452	11,958	10,975	12,932	14,016	19,025
１株当たり純資産	(円)	37.41	48.31	38.66	29.64	39.31	37.03
１株当たり当期純利益 又は当期純損失(△)	(円)	6.92	1.48	△ 8.56	△ 8.39	△ 4.79	△ 8.08
潜在株式調整後 １株当たり当期純利益	(円)	6.89	1.47	–	–	–	–
自己資本比率	(%)	73.9	65.4	57.0	37.1	52.2	39.1
自己資本利益率	(%)	22.5	3.4	△ 19.7	△ 24.6	△ 13.5	△ 21.5
株価収益率	(倍)	9.2	84.7	–	–	–	–
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 2,208	△ 1,791	△ 1,305	△1,153	△ 2,978	△ 2,604
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	509	△ 644	△ 302	△ 1,026	△ 2,008	△ 4,543
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	2,065	4,761	△ 751	2,937	5,771	5,710
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	2,024	4,612	2,240	2,969	3,847	2,513
従業員数(連結) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	109(7)	117(8)	114(20)	143(27)	156(47)	167(262)
従業員数（単体） （外、平均臨時雇用者数）	(人)	24(3)	38(3)	45(8)	40(6)	38(5)	39(5)

当社は、2014年４月１日を効力発生日として、１株につき100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、当該株式分割が2014年9月期の期首に行われたと仮定して、１株当たり純資産、１株当たり当期純利益又は当期純損失（△）及び潜在株式調整後１株当たり当期純利益を算定しております。

Copyright© FinTech Global Incorporated

フィンテック　グローバル株式会社　会社概要

本店所在地	東京都品川区上大崎3－1－1　目黒セントラルスクエア15階
設立	1994年12月7日
代表	代表取締役社長　玉井　信光
上場日	2005年6月8日
証券コード	8789 (東京証券取引所マザーズ市場)
事業年度	10月1日から9月30日まで
事業内容	①投資銀行事業　②公共コンサルティング事業 ③エンタテインメント・サービス事業
発行済株式総数	201,109,600株　(2019年9月30日現在)
単元株式数	100株
資本金	6,461百万円　(2019年9月30日現在)
連結純資産	8,873百万円　(2019年9月30日現在)
大株主 (2019年9月30日現在)	玉井　信光　20,095,500　(9.99%) 藤井　優子　3,576,400　(1.78%)
連結従業員数	167名　(2019年9月30日現在、臨時従業員含まず)

フィンテック / FinTech (登録5113746)・FinTech Global (登録5811521)・フィンテックグローバル (登録5811522)・FGI (登録5113748)は、
フィンテック グローバル株式会社の登録商標であります。

Copyright© FinTech Global Incorporated

免責条項

本資料は、当社およびFGIグループの2019年9月期に関する情報の提供を目的としたものであり、有価証券にかかる売買、金融商品取引に係る契約等いかなる商品の勧誘をするものではありません。

本資料に記載されている、各種資料・文書には、当社またはFGIグループに関連する見通し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外の事実を記載しているものが含まれていることがあります。これらの歴史的事実以外の事実（以下、「将来情報」ということがあります）の記載は、当社またはFGIグループが入手した情報に基づく、当該資料・文書の日付（または当該資料・文書に別途明示された日付）時点における予測、期待、想定、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・目標等を策定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・目標設定等を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし事実または前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。したがって、これらの記述ないし事実または前提（仮定）が、客観的に不正確であり、将来実現しないという可能性がありますが、その原因となりうるリスクや要因は多数あります。将来情報は、将来発生する事象、リスク、不確実性を内包する要因を含んでおり、そうした前提は、当社またはFGIグループの実際の業務・業績に著しい悪影響を及ぼす可能性があります。かかる要因には、日本国、米国、アジアあるいはその他の国・地域における経済状況の悪化、不動産価値または株価の下落、FGIグループの貸出先の産業分野における企業破綻の増加やその他問題の発生、当社の経営統合およびコスト削減期待の実現の困難化または遅延、競争の激化、FGIグループの業務に関わる法令規則の改正、FGIグループにとって不利益となる日本国経済その他の政策の変更が含まれます。

なお、将来情報に関する記述を含む資料・文書が本資料に記載されている間においても、当該将来情報は上記のとおり当該資料・文書の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

Copyright© FinTech Global Incorporated

FGI

FinTech Global Incorporated

The firm of innovative financing

2020年9月期　第１四半期
決算説明資料

2020年２月

フィンテック　グローバル株式会社

（東証マザーズ：8789）

http://www.fgi.co.jp/

フィンテック / FinTech (登録5113746)・FinTech Global (登録5811521)・フィンテックグローバル (登録5811522)・FGI (登録5113748)は、
フィンテック グローバル株式会社の登録商標です。

目次

2020年9月期 第1四半期　連結業績概況・・・・・・・・・・ 2

連結業績ハイライト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

セグメント別業績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

投資銀行事業セグメント一業務別売上高、売上総利益・・・ 6

エンタテインメント・サービス事業 業績等の推移　・・・・ 7

投融資残高の推移（FGI,FGT合計）・・・・・・・・・・・・ 8

受託資産残高の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

連結貸借対照表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

連結損益計算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

今後の見通し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

連結経営指標等の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

会社概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

Copyright© FinTech Global Incorporated

2020年9月期 第1四半期　連結業績概況

●前期1Qに開業していなかったムーミンバレーパークの運営による収益が加わり、売上高、売上総利益とも増加。

売上高　　2,209百万円 (前期1Q比 +1,189百万円)
売上総利益　696百万円 (前期1Q比　+241百万円)

●開業準備費用、その他一時的費用がなくなり販管費減少。営業損益は改善。

販管費　　955百万円 (前期1Q比 △247百万円) ※販管費は２Q以降も削減予定。
営業損益　△258百万円 (前期1Q比　+488百万円)

投資銀行事業

売上総利益　　316百万円　(前期1Q比 +67百万円)
セグメント損益　△71百万円　(前期1Q比 +57百万円)

・業務受託、航空機アセットマネジメントが堅調に推移。
・前期1Qの企業投資の評価損の影響がなくなる。

エンタテインメント・サービス事業

（売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含む。）

売上高　　1,647百万円　(前期1Q比 +1,162百万円　前期4Q比 △74百万円)
セグメント損益 △18百万円　(前期1Q比　+373百万円　前期4Q比 +59百万円)

【前期１Q比】
・ムーミンバレーパーク運営により売上高は240%増加。開業準備費用負担がなくなり、セグメント損益は大きく改善。
・減価償却費負担が重くなり、192百万円増の215百万円となる。

【前期4Q比】（直前四半期との比較）
・メッツァは各種施策により来園者数は19.8%増加。10月の悪天候やライセンス事業の減収により、売上高は4.3%減少。
・イベント費用・販促費は増加するも人件費・外注費をコントロール。営業費用は134百万円減少し、損益は改善。

Copyright© FinTech Global Incorporated

連結業績ハイライト

【単位：百万円】

	2019/9期					2020/9期	増減額（前年同期比）	増減率（前年同期比）
	1Q	2Q	3Q	4Q	4Q累計	1Q		
売上高	1,020	2,257	3,411	2,486	9,175	2,209	+1,189	116.6%
売上総利益	455	495	1,324	669	2,944	696	+241	53.0%
営業利益	△747	△720	160	△356	△1,664	△258	+488	―
経常利益	△804	△762	121	△404	△1,850	△297	+507	―
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益	△599	△645	34	△376	△1,586	△284	+314	―
償却前営業利益	△679	△568	416	△104	△935	△5	+673	―

・償却前営業利益は、営業利益に売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費及びのれん償却費を足し戻して算出。

Copyright© FinTech Global Incorporated

セグメント別業績 - 1

【単位：百万円】

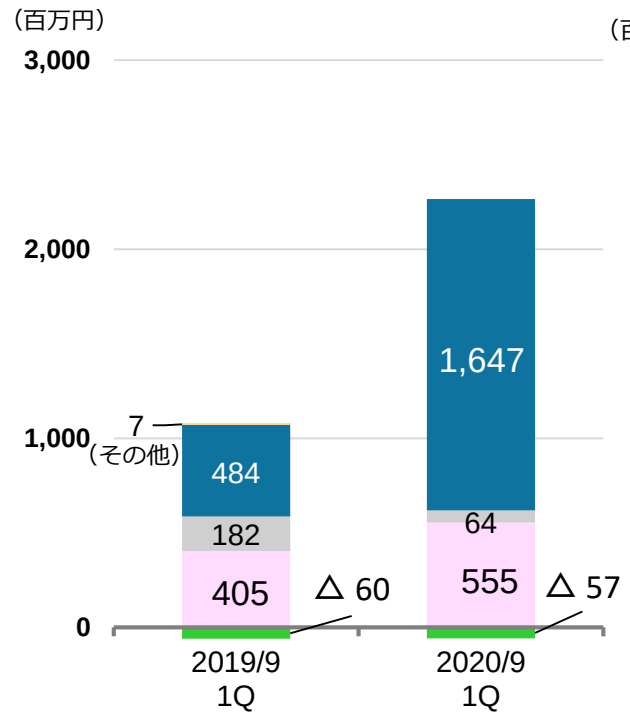
報告セグメント		2019/9期 1Q	2019/9期 2Q	2019/9期 3Q	2019/9期 4Q	2019/9期 4Q累計	2020/9期 1Q	前年同期比 2019/1Q比	前四半期比 2019/4Q比	主な連結会社
投資銀行事業	売上高	405	975	1,230	782	3,393	555	+149	△227	当社、フィンテックアセットマネジメント フィンテックグローバルトレーディング フィンテックM&Aソリューション FGIキャピタル・パートナーズ SGI-Group
	売上総利益	249	130	466	293	1,139	316	+67	+22	
	営業利益	△128	△276	26	△100	△478	△71	+57	+28	
公共コンサルティング事業	売上高	182	263	148	79	673	64	△118	△15	パブリック・マネジメント・コンサルティング （ジオプラン・ナムテック）
	売上総利益	88	149	78	47	364	33	△55	△14	
	営業利益	10	65	△3	6	79	△7	△17	△14	
エンタテインメント・サービス事業	売上高	484	1,078	2,122	1,721	5,407	1,647	+1,162	△74	ムーミン物語 ライツ・アンド・ブランズ 飯能地域資源利活用合同会社
	売上総利益	131	228	808	376	1,545	376	+245	+0	
	営業利益	△392	△299	346	△78	△423	△18	+373	+59	
その他	売上高	7	13	3	-	24	-	△7	-	（アダコテック）
	売上総利益	7	13	3	-	24	-	△7	-	
	営業利益	△4	0	△8	-	△12	-	+4	-	
調整額（セグメント間取引消去又は全社費用）	売上高	△60	△73	△93	△97	△324	△57	+3	+40	
	売上総利益	△21	△26	△32	△48	△128	△29	△8	+18	
	営業利益	△232	△210	△201	△185	△829	△161	+71	+23	
連結ＰＬ計上額	売上高	1,020	2,257	3,411	2,486	9,175	2,209	+1,189	△276	
	売上総利益	455	495	1,324	669	2,944	696	+241	+27	
	営業利益	△747	△720	160	△356	△1,664	△258	+488	+97	
関連事項		2018/11 メッツァ ビレッジ 開業	2019/3 ムーミン バレーパーク 開業		ジオプラン・ナムテック、アダコテックを連結除外					

・ 調整額（営業利益）（2020年9月期１Qは△161百万円）には、セグメント間取引消去（2020年9月期1Qは62百万円）及び報告セグメントに配分していない全社費用（2020年9月期1Qは△224百万円）を含む。全社費用は合理的な配分が難しいなどの理由により報告セグメントに帰属しない一般管理費です。
・ 各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めた売上高です。

Copyright© FinTech Global Incorporated

セグメント別業績 - 2

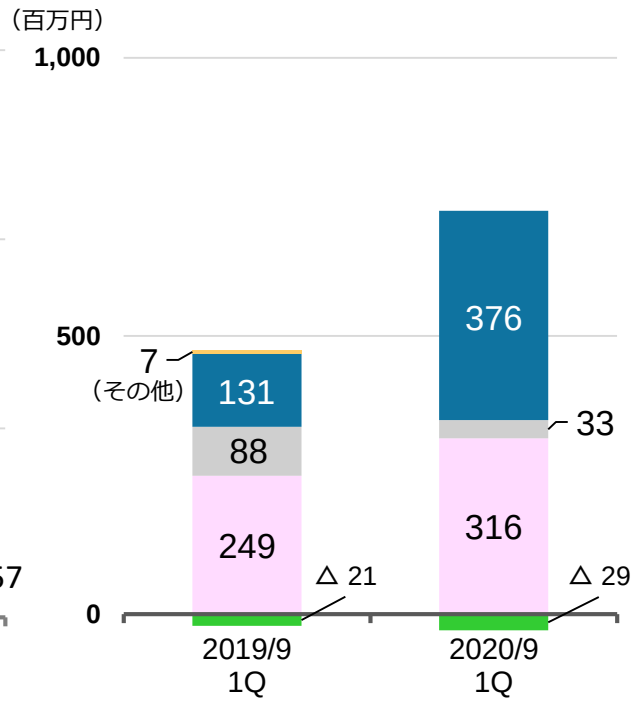
売上高



1,020　2,209

116.6%増

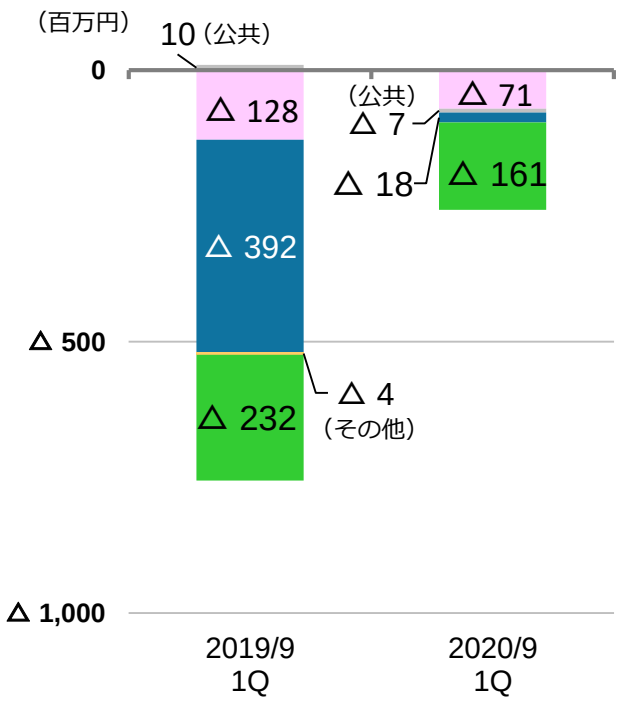
売上総利益



445　696

53.0%増

営業利益



△747　△258

（注）セグメント別内訳は、他のセグメントとの取引を消去しない数値を使用。

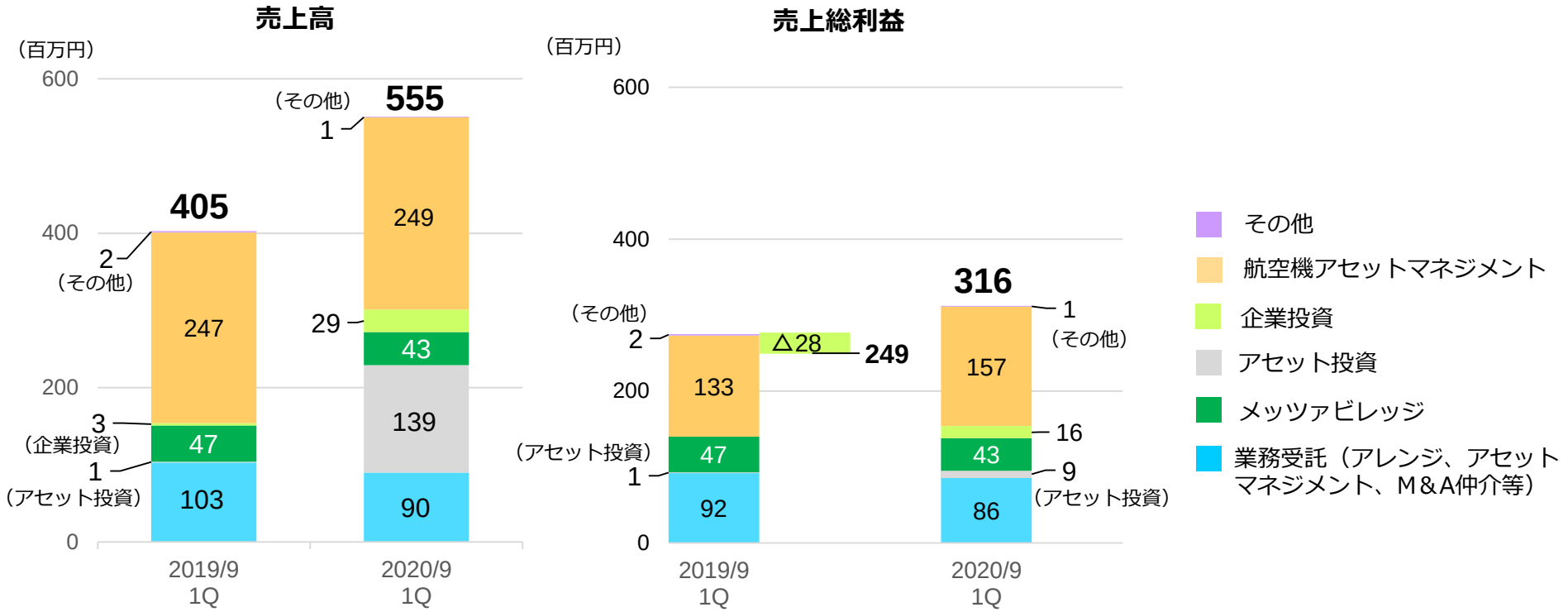
投資銀行事業　公共コンサルティング事業　エンタテインメント・サービス事業　その他　全社費用または取引消去

Copyright© FinTech Global Incorporated

投資銀行事業セグメントー業務別売上高、売上総利益

前期の企業投資の評価損の影響がなくなり、売上総利益は前年同期比26.9%増

- 業務受託、航空機アセットマネジメントが堅調に推移。
- アセット投資は回収増により売上高は増加。
- 企業投資はファンド投資で投資回収売上を計上。



(注) エンタテインメント・サービス事業から投資銀行事業が受け取るメッツァビレッジの賃料などの**セグメント間の内部売上高は、消去しない数値**を使用。

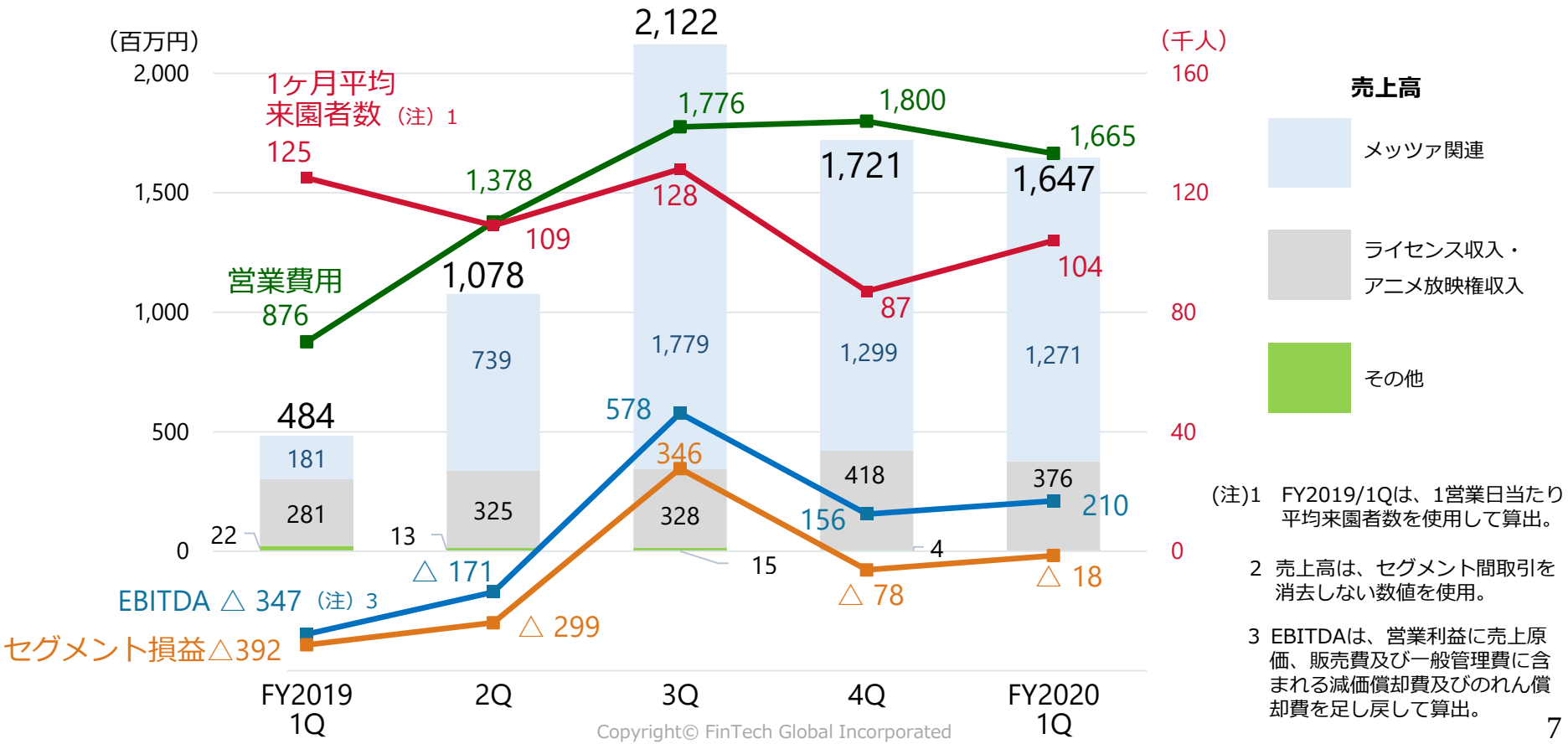
Copyright© FinTech Global Incorporated

エンタテインメント・サービス事業　業績等の推移（四半期）

前期4Q比で来園者数は増加したが、10月の悪天候の影響やライセンス事業の減収により売上高は4.3%減。イベント・販促費用は増加したが人件費・外注費をコントロールした結果、前期4Q比で営業費用は134百万円減少し、セグメント損益は59百万円改善。

・メッツァ関連　2019年10月はメッツァが台風で3連休の初日に休園するなどの悪天候の影響を受け、低調。
11月以降は、顧客満足度を高めるための施策として、平日の駐車料金無料化、「１デーパス」発売、
イベント "WINTER WONDERLAND in MOOMINVALLEY PARK"などにより、 来園者数は前期4Qより19.8%増加。

・ライセンス関連　前期1Q比ではライセンス収入は増加。前期1Qになかったアニメ放映権収入を計上。売上高は前期1Q比33.6%増。



(注)1　FY2019/1Qは、1営業日当たり平均来園者数を使用して算出。

2　売上高は、セグメント間取引を消去しない数値を使用。

3　EBITDAは、営業利益に売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費及びのれん償却費を足し戻して算出。

Copyright© FinTech Global Incorporated

投融資残高の推移（FGI,FGT合計）

ムーミンバレーパーク保有のSPCへの貸付を回収。成長企業への新規投資は継続実行。

2020年9月期1Q (2019/10～2019/12)の主な変動要因）

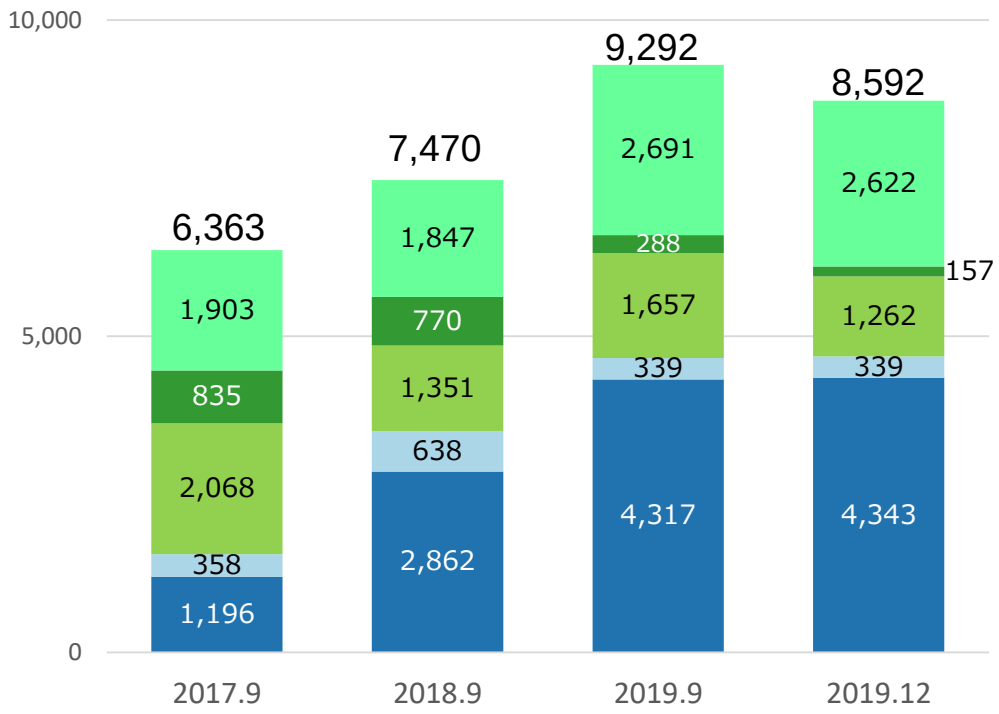
・プリンシパルインベストメント　【投資実行】成長企業（１社）に新規投資。【投資回収】不動産案件、企業投資案件の回収。

・ベンチャーキャピタルファンド　FGFへの投資額は、FGF投資先である創薬関連会社の投資回収により減少。
（投資回収による損益取込の売上高は当1Qに計上）。 FGF残高は0.5億円となる。

・企業融資　前期に実行した飯能地域資源利活用合同会社へ貸付を回収。

当社(FGI)、フィンテックグローバルトレーディング（FGT）の投融資合計額（子会社への出資を含む）

（単位：百万円）



（注）FGI、FGT間の出資・貸付は、含めず。

プリンシパルインベストメント
ベンチャーキャピタルファンドへの投資を除く営業投資有価証券、投資有価証券、関係会社株式、関係会社出資金、出資金の合計額。

ベンチャーキャピタルファンド
FinTech GIMV Fund（FGF)、他2ファンドへの投資

企業融資
営業貸付金、子会社への短期貸付金の合計額。
全額引当している債権は含めないが、子会社貸付は全額計上。

不動産等(投資銀行事業)
投資銀行事業における運用不動産、開発用不動産。
BSでは仕掛販売用不動産・販売用不動産に計上。

不動産等(メッツァ)
メッツァにおける不動産。
メッツァビレッジの不動産は仕掛販売用不動産・販売用不動産に計上。ムーミンバレーパークの土地は、法的には地域SPCに譲渡しているが会計上は当社固定資産に計上しているため、当該金額に含めている。

Copyright© FinTech Global Incorporated

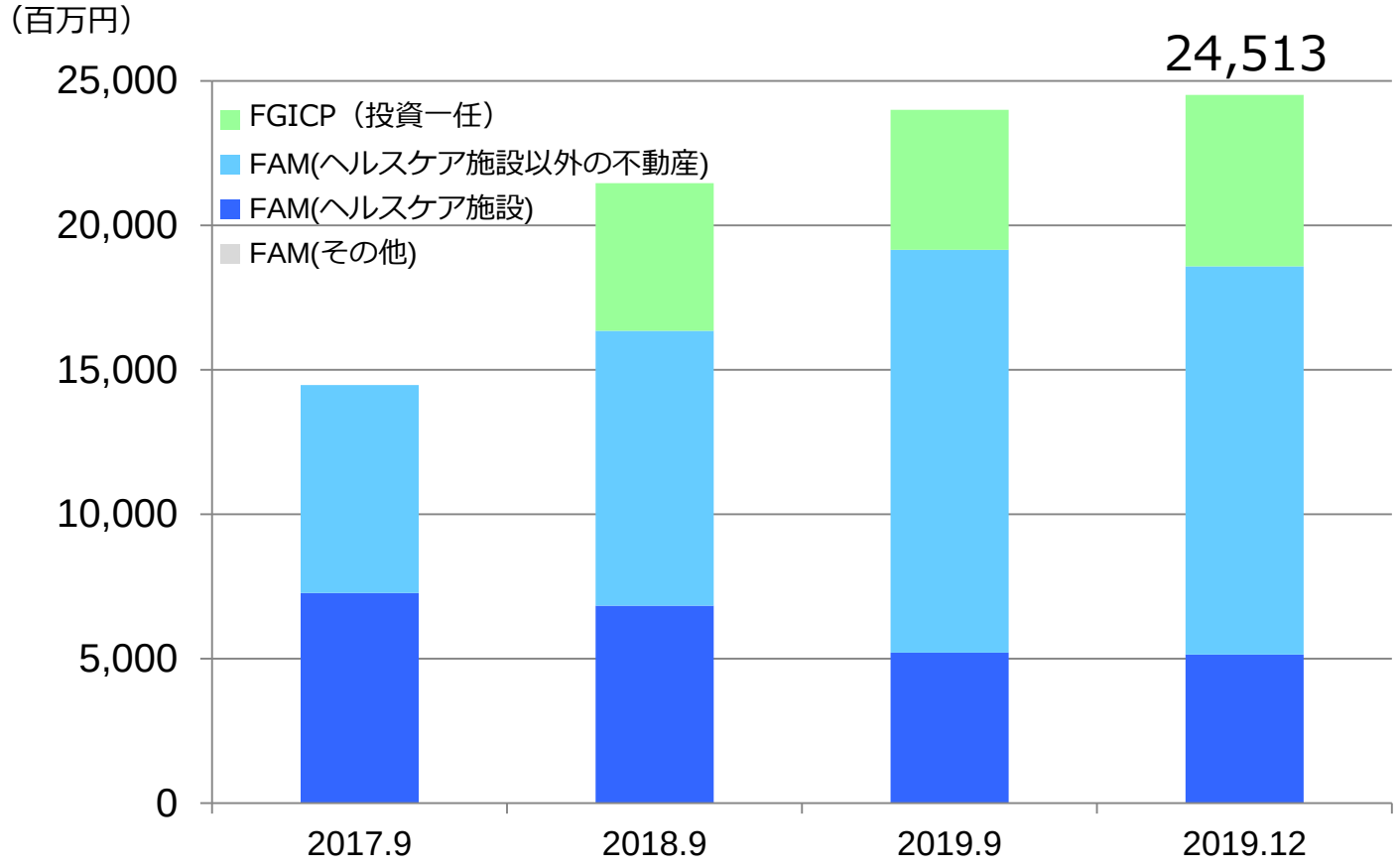
受託資産残高の推移

フィンテックアセットマネジメント（FAM）
FGIキャピタル・パートナーズ　（FGICP）

FGICPが、新規受託等により国内、海外とも運用資産が増加。
グループの受託資産残高は前期末比2.2%増加。

※ヘルスケア施設：高齢者向け住宅を主とする施設

※受託資産残高は入手可能な直近の財務諸表や不動産の取得価額等を基に算出



Copyright© FinTech Global Incorporated

連結貸借対照表

資産の部

	19年9月期	20年9月期 第１四半期	増減
流動資産	10,438,589	10,313,804	△ 124,784
現金及び預金	2,533,187	2,547,258	14,070
受取手形・売掛金	727,499	679,240	△ 48,258
1 営業投資有価証券	1,359,941	1,107,410	△ 252,531
営業貸付金	548,625	533,813	△ 14,811
販売用不動産	4,211,988	4,238,709	26,720
商品	208,577	270,734	62,156
その他	948,410	1,028,245	79,835
貸倒引当金	△ 99,641	△ 91,607	8,034
固定資産	8,586,424	8,387,729	△ 198,695
2 有形固定資産	7,283,853	7,146,874	△ 136,978
無形固定資産	724,929	684,154	△ 40,775
投資その他の資産	577,641	556,700	△ 20,941
資産合計	19,025,014	18,701,533	△ 323,480

1 成長企業（1社）への新規投資を実行。
ベンチャーキャピタルファンド（FGF)は、投資先である創薬関連会社のエグジットに伴い、当社は分配を受ける。また、子会社SPCの不動産信託受益権売却が進んだことにより減少。

2 ムーミンバレーパークにおいて、コンテンツ充実のための投資を継続的に実施しているが、建物、内外装等の減価償却により減少。

負債の部

（単位： 千円）

	19年9月期	20年9月期 第１四半期	増減
流動負債	3,010,093	3,143,053	132,960
支払手形・買掛金	213,256	390,693	177,436
短期借入金	373,904	468,304	94,400
1年内返済予定の長期借入金	752,968	645,596	△ 107,372
未払法人税等	98,999	80,049	△ 18,950
賞与引当金	157,244	92,319	△ 64,925
その他	1,413,720	1,466,090	52,370
固定負債	7,141,750	7,003,472	△ 138,278
長期借入金	6,086,260	6,016,589	△ 69,671
退職給付に係る負債	94,633	98,172	3,538
その他	960,856	888,711	△ 72,145
負債合計	10,151,843	10,146,526	△ 5,317

純資産の部

株主資本	7,480,064	7,195,540	△ 284,524
資本金	6,461,911	6,462,062	151
資本剰余金	5,015,924	5,016,132	208
利益剰余金	△ 3,997,770	△ 4,282,655	△ 284,884
その他の包括利益累計額	△ 33,493	△ 44,823	△ 11,329
新株予約権	65,837	61,220	△ 4,616
非支配株主持分	1,360,762	1,343,069	△ 17,692
純資産合計	8,873,170	8,555,007	△ 318,162
負債純資産合計	19,025,014	18,701,533	△ 323,480

連結損益計算書

（単位： 千円）

	2019年9月期 第1四半期	売上比	2020年9月期 第1四半期	売上比	増減額	増減率
売上高	1,020,148	100.0%	2,209,465	100.0%	1,189,317	116.6%
売上原価	564,807	55.4%	1,512,927	68.5%	948,120	167.9%
売上総利益	455,340	44.6%	696,537	31.5%	241,196	53.0%
販売費及び一般管理費	1,202,697	117.9%	955,454	43.2%	△ 247,242	△ 20.6%
営業損失（△）	△ 747,356	△ 73.3%	△ 258,917	△ 11.7%	488,439	―
営業外収益	6,781	0.7%	4,768	0.2%	△ 2,013	△ 29.7%
営業外費用	64,019	6.3%	42,869	1.9%	△ 21,149	△ 33.0%
経常損失（△）	△ 804,593	△ 78.9%	△ 297,017	△ 13.4%	507,576	―
特別利益	1,448	0.1%	4,486	0.2%	3,038	209.7%
特別損失	178	0.0%	2,140	0.1%	1,961	1,098.3%
税金等調整前四半期純損失（△）	△ 803,323	△ 78.7%	△ 294,671	△ 13.3%	508,652	―
法人税等合計	7,310	0.7%	2,701	0.1%	△ 4,608	△ 63.0%
四半期純損失（△）	△ 810,633	△ 79.5%	△ 297,372	△ 13.5%	513,261	―
非支配株主に帰属する四半期純損失（△）	△ 211,278	△ 20.7%	△ 12,488	△ 0.6%	198,789	―
親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△ 599,355	△ 58.8%	△ 284,884	△ 12.9%	314,471	―

1 当第１四半期は、前第１四半期に開業していなかったムーミンバレーパーク運営による収益費用により、売上高、売上原価ともに大幅に増加。

2 前第１四半期のメッツァ開業準備費用の負担、その他一時的費用がなくなる。連結子会社減少もあり、前第１四半期比で20.6%減少。

Copyright© FinTech Global Incorporated

今後の見通し －1

中期経営計画を2020年３月頃を目途に策定し公表する予定

当期の連結業績予想は、この中期経営計画とともに開示予定。

収益向上のため、現在取り組んでいる主な事項は、

投資銀行事業、エンタテイメント・サービス事業において、それぞれ以下の通り。

投資銀行事業

投資回収

- アセット投資・・・保有物件の売却活動を推進中。当期中の収益化を企図。
- 企業投資・・・・・投資先のIT企業数社のファンド化・エグジットを検討中。

メッツァビレッジ収益力向上策の検討

- 遊休地活用や新規テナント等により、収益力をさらに向上させる方策を検討。
- 収益力を向上させた上で、証券化などを検討。

Copyright© FinTech Global Incorporated

今後の見通し －2

エンタテインメント・サービス事業

顧客満足度の向上を通じた収益向上

－ 満足度アップにより、来園者数を拡大－



ムーミンバレーパーク開業1周年に向け、コンテンツ充実予定。



WINTER WONDERLAND
in MOOMINVALLEY PARK
(3/8まで)
ムーミン屋敷のプロジェクションマッピングによるショーなとが楽しめる。

コンテンツ拡充

・ソフト、ハードともコンテンツを拡充

イベント開催

・魅力あるイベントの定期的な実施

サービス充実化

・平日の駐車料金無料キャンペーン
・チケット券種、内容の改定
2019/11/30から１デーパスの販売を開始。



ストーリーの扉
ムーミンのエピソードを数分間の映像に。2019/11/30から園内各所に設置。この春にも新設予定。



ストーリーガイド
ムーミンのストーリーのガイドをパーク内で集める。2019/11/30より配布。

©Moomin Characters ™

Copyright© FinTech Global Incorporated

連結経営指標等の推移

		2015年 9月期	2016年 9月期	2017年 9月期	2018年 9月期	2019年 9月期	2020年9月期 第1四半期
売上高	(百万円)	5,429	7,485	7,182	3,689	9,175	2,209
売上総利益	(百万円)	2,495	1,496	1,626	2,261	2,944	696
営業利益又は営業損失(△)	(百万円)	115	△ 1,031	△ 1,319	△ 1,072	△ 1,664	△ 258
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	237	△ 1,369	△ 1,341	△ 1,227	△ 1,850	△ 297
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	(百万円)	224	△ 1,384	△ 1,358	△ 820	△ 1,586	△ 284
純資産	(百万円)	7,879	6,312	5,326	8,551	8,873	8,555
総資産	(百万円)	11,958	10,975	12,932	14,016	19,025	18,701
１株当たり純資産	(円)	48.31	38.66	29.64	39.31	37.03	35.56
１株当たり当期純利益 又は当期純損失(△)	(円)	1.48	△ 8.56	△ 8.39	△ 4.79	△ 8.08	△ 1.42
潜在株式調整後 １株当たり当期純利益	(円)	1.47	–	–	–	–	–
自己資本比率	(%)	65.4	57.0	37.1	52.2	39.1	38.2
自己資本利益率	(%)	3.4	△ 19.7	△ 24.6	△ 13.5	△ 21.5	–
株価収益率	(倍)	84.7	–	–	–	–	–
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 1,791	△ 1,305	△1,153	△ 2,978	△ 2,604	–
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 644	△ 302	△ 1,026	△ 2,008	△ 4,543	–
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	4,761	△ 751	2,937	5,771	5,710	–
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	4,612	2,240	2,969	3,847	2,513	–
従業員数(連結) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	117(8)	114(20)	143(27)	156(47)	167(262)	169(273)
従業員数（単体） （外、平均臨時雇用者数）	(人)	38(3)	45(8)	40(6)	38(5)	39(5)	33(1)

Copyright© FinTech Global Incorporated

フィンテック　グローバル株式会社　会社概要

本店所在地	東京都品川区上大崎3－1－1　目黒セントラルスクエア15階
設立	1994年12月7日
代表	代表取締役社長　玉井　信光
上場日	2005年6月8日
証券コード	8789 (東京証券取引所マザーズ市場)
事業年度	10月1日から9月30日まで
事業内容	①投資銀行事業　②公共コンサルティング事業 ③エンタテインメント・サービス事業
発行済株式総数	201,114,600株　(2019年12月31日現在)
単元株式数	100株
資本金	6,462百万円　(2019年12月31日現在)
連結純資産	8,555百万円　(2019年12月31日現在)
大株主 (2019年9月30日現在)	玉井　信光　20,095,500　(9.99%) 藤井　優子　3,576,400　(1.78%)
連結従業員数	169名　(2019年12月31日現在、臨時従業員含まず)

フィンテック / FinTech (登録5113746)・FinTech Global (登録5811521)・フィンテックグローバル (登録5811522)・FGI (登録5113748)は、
フィンテック グローバル株式会社の登録商標であります。

Copyright© FinTech Global Incorporated

免責条項

本資料は、当社およびFGIグループの2020年9月期第1四半期に関する情報の提供を目的としたものであり、有価証券にかかる売買、金融商品取引に係る契約等いかなる商品の勧誘をするものではありません。

本資料に記載されている、各種資料・文書には、当社またはFGIグループに関連する見通し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外の事実を記載しているものが含まれていることがあります。これらの歴史的事実以外の事実（以下、「将来情報」ということがあります）の記載は、当社またはFGIグループが入手した情報に基づく、当該資料・文書の日付（または当該資料・文書に別途明示された日付）時点における予測、期待、想定、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・目標等を策定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・目標設定等を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし事実または前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。したがって、これらの記述ないし事実または前提（仮定）が、客観的に不正確であり、将来実現しないという可能性がありますが、その原因となりうるリスクや要因は多数あります。将来情報は、将来発生する事象、リスク、不確実性を内包する要因を含んでおり、そうした前提は、当社またはFGIグループの実際の業務・業績に著しい悪影響を及ぼす可能性があります。かかる要因には、日本国、米国、アジアあるいはその他の国・地域における経済状況の悪化、不動産価値または株価の下落、FGIグループの貸出先の産業分野における企業破綻の増加やその他問題の発生、当社の経営統合およびコスト削減期待の実現の困難化または遅延、競争の激化、FGIグループの業務に関わる法令規則の改正、FGIグループにとって不利益となる日本国経済その他の政策の変更が含まれます。

なお、将来情報に関する記述を含む資料・文書が本資料に記載されている間においても、当該将来情報は上記のとおり当該資料・文書の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

Copyright© FinTech Global Incorporated

FGI

FinTech Global Incorporated

The firm of innovative financing

IR会社説明会資料

2020年3月26日

フィンテック　グローバル株式会社

(東証マザーズ：8789)
http://www.fgi.co.jp/

本日のご説明内容

会社概要	P2
投資銀行事業	P6
公共コンサルティング事業	P15
エンタテインメント・サービス事業	P18
業績	P26
今後の見通し	P33
IR会社説明会に関するご質問について	P39
参考資料	P41

Copyright© FinTech Global Incorporated

会社概要

Copyright© FinTech Global Incorporated

フィンテック　グローバル株式会社　会社概要

本店所在地	東京都品川区上大崎3－1－1　目黒セントラルスクエア15階
設立	1994年12月7日
代表	代表取締役社長　玉井　信光
上場日	2005年6月8日
証券コード	8789 (東京証券取引所マザーズ市場)
事業年度	10月1日から9月30日まで
事業内容	①投資銀行事業　②公共コンサルティング事業 ③エンタテインメント・サービス事業
発行済株式総数	201,114,600株　(2019年12月31日現在)
単元株式数	100株
資本金	6,462百万円　(2019年12月31日現在)
連結純資産	8,555百万円　(2019年12月31日現在)
大株主 (2019年9月30日現在)	玉井　信光　20,095,500　(9.99%) 藤井　優子　3,576,400　(1.78%)
連結従業員数	169名　(2019年12月31日現在、臨時従業員含まず)

フィンテック / FinTech (登録5113746)・FinTech Global (登録5811521)・フィンテックグローバル (登録5811522)・FGI (登録5113748)は、
フィンテック グローバル株式会社の登録商標であります。

Copyright© FinTech Global Incorporated

The Firm of Innovative Financing

当社のコーポレートアイデンティティは、

「すべての産業界へ革新的なストラクチャードファイナンスの効用を浸透させる」

であります。金融環境の変化に応じた先端的・革新的な金融商品や「仕組み」を作り、多様化する顧客のファイナンス・ニーズに対応するとともに、顧客の企業価値、資産価値の最大化を通じて、関係するすべてのステークホルダーの満足を実現してまいります。

ストラクチャード・ファイナンスとは、“仕組み金融”

ストラクチャードファイナンスは「ある一定のキャッシュフローを生んでいる特定の資産を、組成した特別目的会社に売却し資金調達する一方、そのキャッシュフローをローン、証券として金融機関や投資家が購入する」という仕組みの資金調達手法です。

Copyright© FinTech Global Incorporated

FGIグループ事業構成

投資銀行業務と企業投資の両輪で企業の成長、地域社会の発展を支援することで社会に必要とされるサスティナブルな企業を目指します。

投資銀行事業
FGI、FAM、FGT、FMA、FGICP、SGI

投資銀行業務

業務受託

投資銀行業務 各種プログラム

- ファイナンスアレンジメント
- 不動産アセット・マネジメント
- 投資一任業務
- M＆A関連業務
- 企業再生支援
- 地域産業支援
- 航空機アセットマネジメント

公共コンサルティング事業

（株）パブリック・マネジメント・コンサルティング
- 自治体等の財務書類作成支援
- PFI/PPP手法の導入検討支援

（株）ジオプラン・ナムテック
- 都市インフラ管理システムの提供　（関連会社）

投資（アセット）

- 再生可能エネルギー施設
- 不動産関連プロジェクト
- 介護・福祉施設
- **メッツァビレッジ**

証券化・ファンド組成を経て金融市場・投資家市場等のキャピタル・マーケッツへ売却

企業投資

投資（企業投資）

直接投資

子会社・関連会社

エンタテインメント・サービス事業

（株）ムーミン物語

(株)ライツ・アンド・ブランズ

（株）アダコテック　（関連会社）

事業会社

ミュージックセキュリティーズ㈱

Tube（株）

MDT INNOVATIONS Sdn Bhd

Queen Bee Capital㈱

アクシスモーション（株）

合計**27**社（2019年9月末現在）

ファンド投資

Newton Biocapital I SA

NEWTON BIOCAPITAL

ライフサイエンス企業への投資

SilverTech Partners FGI LLC

テクノロジー・カンパニーへの投資

合計**2**ファンド
（2019年12月末現在）

Copyright© FinTech Global Incorporated

投資銀行事業

Copyright© FinTech Global Incorporated

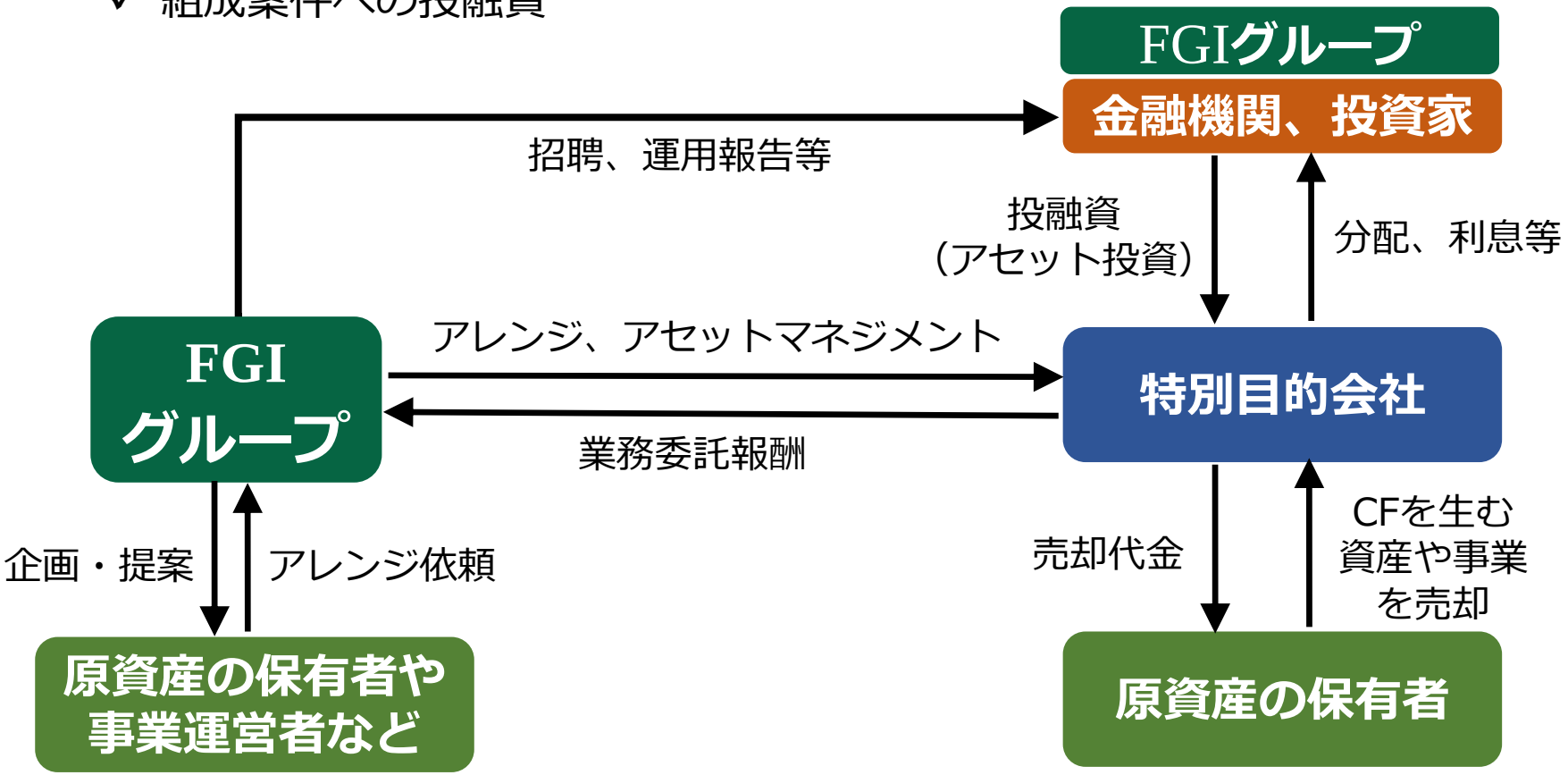
投資銀行業務

FGIグループはアレンジャーとして、顧客の資金調達のための“仕組み“を構築プロジェクト運営を支援。組成案件に自ら投融資する場合も。

- ✓ 資金調達等を目的とする証券化等のアレンジ

  関係者のニーズをくみ上げながら、最適な仕組構築や財務戦略の企画・立案、法的・会計的・税務的検証、プロジェクト参加者の招聘などにより、仕組み構築全体を取り仕切る。

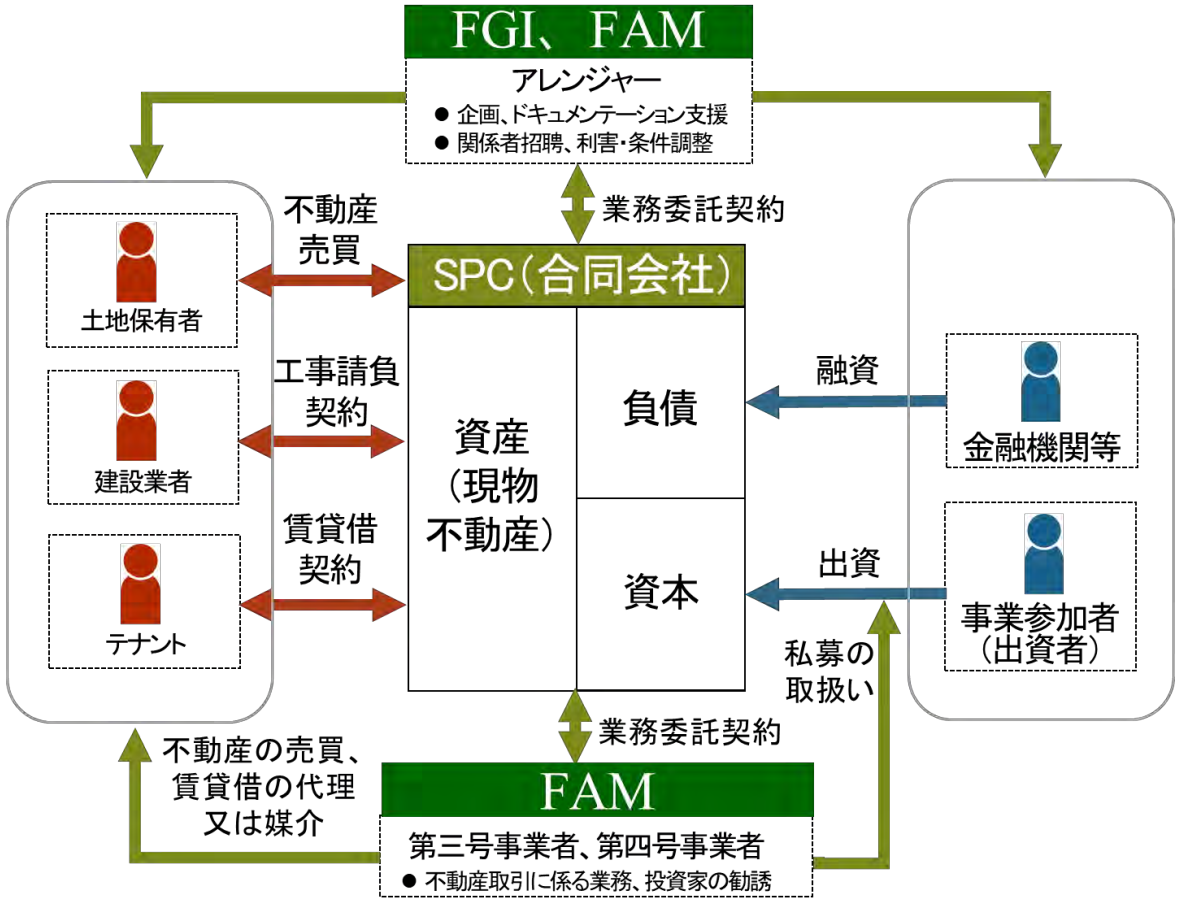
- ✓ 証券化された資産の管理・運用（アセットマネジメント）
- ✓ 組成案件への投融資



Copyright© FinTech Global Incorporated

開発型不動産証券化　アレンジ例

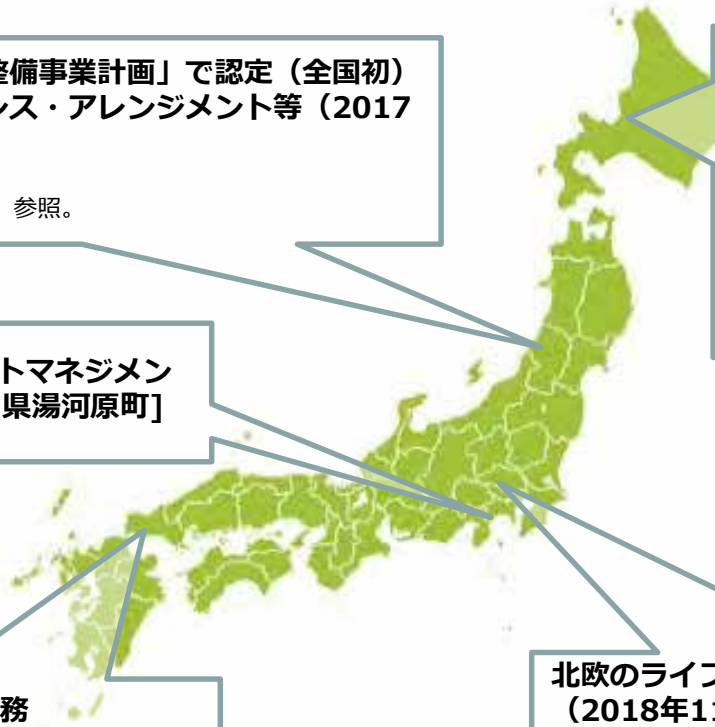
関係者のニーズをくみ上げながら、最適な財務戦略の企画・立案、法的・会計的・税務的検証、プロジェクト参加者の招聘・利害・条件調整などにより、仕組み構築を支援。



Copyright© FinTech Global Incorporated

地域の金融機関、事業会社、自治体、市民と連携し、地域社会の課題を解決する「金融の地産地消型」ソリューションの提案とアレンジを実施。

プロジェクト事例



国土交通省「民間誘導施設等整備事業計画」で認定（全国初）の大規模改修事業のファイナンス・アレンジメント等（2017年9月～ ）[山形県鶴岡市]

詳細は、次頁 プロジェクト事例詳細　参照。

サ高住開発フェーズから運用フェーズに向けたファイナンス・アレンジメント等（2016年10月） [北海道札幌市]

サ高住開発案件として、2015年７月に建設資金をアレンジ。竣工時（2016年10月）、リファイナンス（総額10億円）をアレンジ。市民ファンド※（2.6億円）もアレンジ。
FAMはアセットマネジメントを受託。

老舗旅館「富士屋旅館」のアセットマネジメント受託（2017年3月～ ）[神奈川県湯河原町]

※市民ファンドは、身近で地域の将来に役立つ金融商品として、個人・企業に地元証券会社が販売。
当社アレンジのすべての市民ファンドが予定額を達成。

公共施設リニューアル調査検討業務（2016年7月～2017年3月）[山口県]

公共施設のリニューアルについて、財政負担の低減と将来負担を考慮した事業スキームの調査・検討業務を受託。

北欧のライフスタイルを体験できるメッツァビレッジ（2018年11月開業）、ムーミンの物語を主題としたムーミンバレーパーク（2019年3月開業）の開発・運営 [埼玉県飯能市]

詳細は、エンタテインメント・サービス事業を参照。

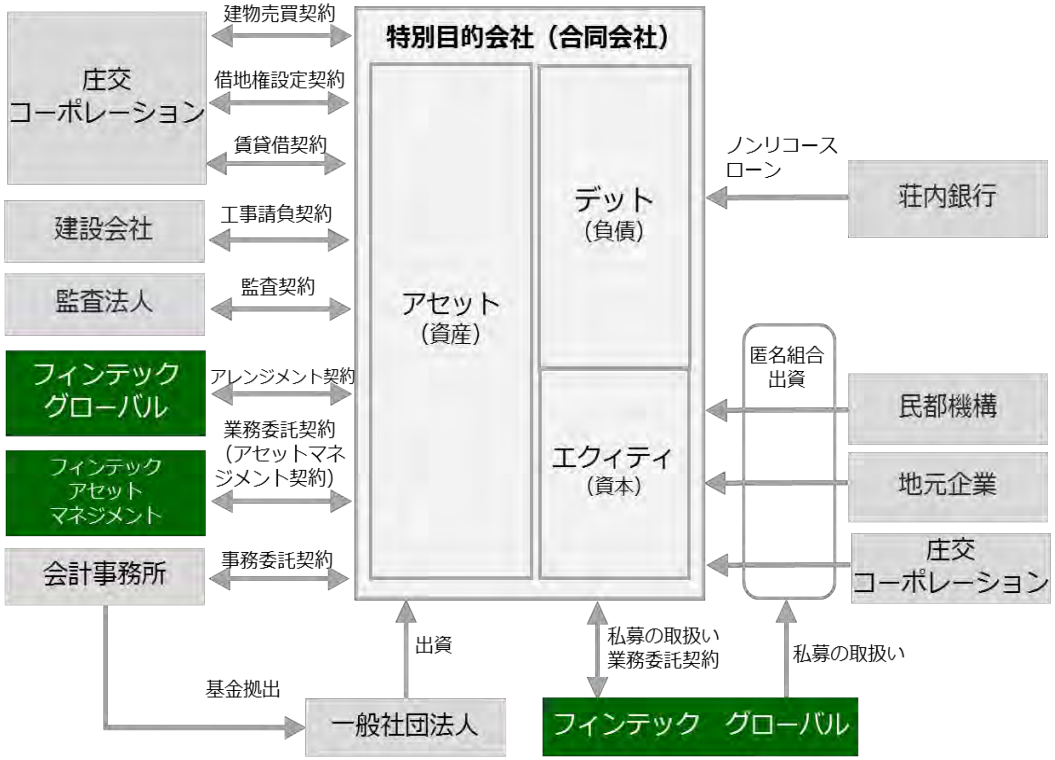
Copyright© FinTech Global Incorporated

大規模改修事業のファイナンス・アレンジ等を受託（2017年9月～）

- 山形県鶴岡市内中心部の３施設の大規模改修事業において、不動産証券化手法によって改修資金を調達するアレンジメント業務等を受託。
- フィンテックアセットマネジメント㈱は、アセットマネジメントを受託。
- 鶴岡市のコンパクトシティ推進に向けたマスタープランで定められた都市機能誘導区域内で「誘導施設」として設定。国土交通省が2017年４月に全国で初めて**民間誘導施設等整備事業計画**として認定。



バスターミナルを中心に隣接する複合施設。



Copyright© FinTech Global Incorporated

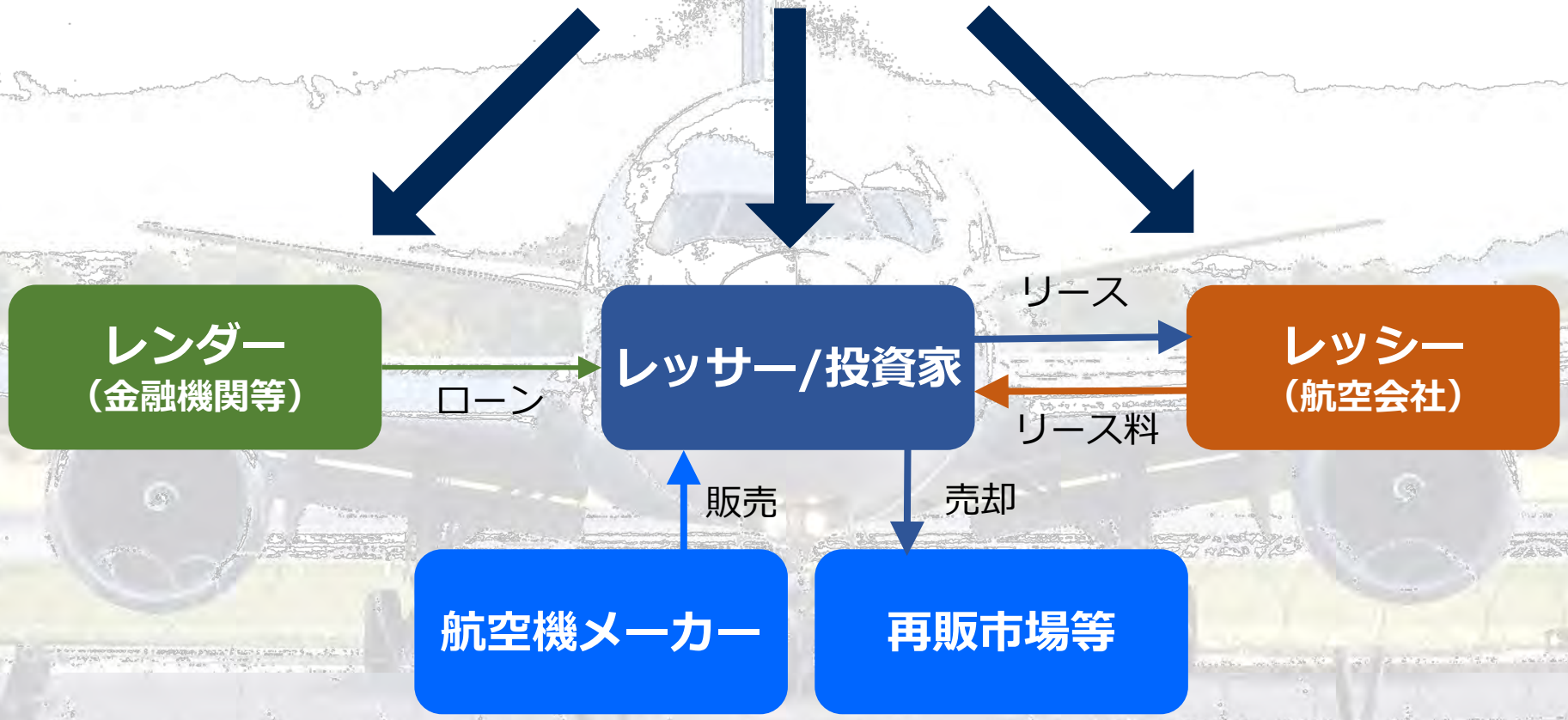
投資銀行事業の領域拡大 ー 航空機アセットマネジメント

投資銀行業務

- ✓ 2017年12月、航空機アセットマネジメント業務を行うSGI-Aviation Services B.V.の持株会社の株式を51%取得。
- ✓ SGI-Aviationは、航空機ファイナンス市場において航空機アセットマネジメント・技術的コンサルティングアドバイザリーサービスを提供。

SGI AVIATION

・航空機アセットマネジメント
・技術的コンサルティングアドバイザリーサービス



Copyright© FinTech Global Incorporated

航空機アセットマネジメント

SGIはリース会社等にアセットマネジメントを提供

・航空機を保有するリース会社等のために、事前調査、取得、保守、売却など様々な場面において、オランダを拠点として世界各地で技術的アドバイス・アセットマネジメントを提供
・航空機取得で必要となる航空機登録も行う。



【受託事例】

■航空機ポートフォリオの取得・証券化案件に技術アドバイザリー業務を提供（2018年～）

- Zephyrus Aviation Capital （航空機リース会社）による21機の航空機ポートフォリオの取得・証券化（336.6百万ドルの資産担保証券）に関して、案件分析及び技術アドバイザリー業務を提供。今後もアセットマネジメントを行う。

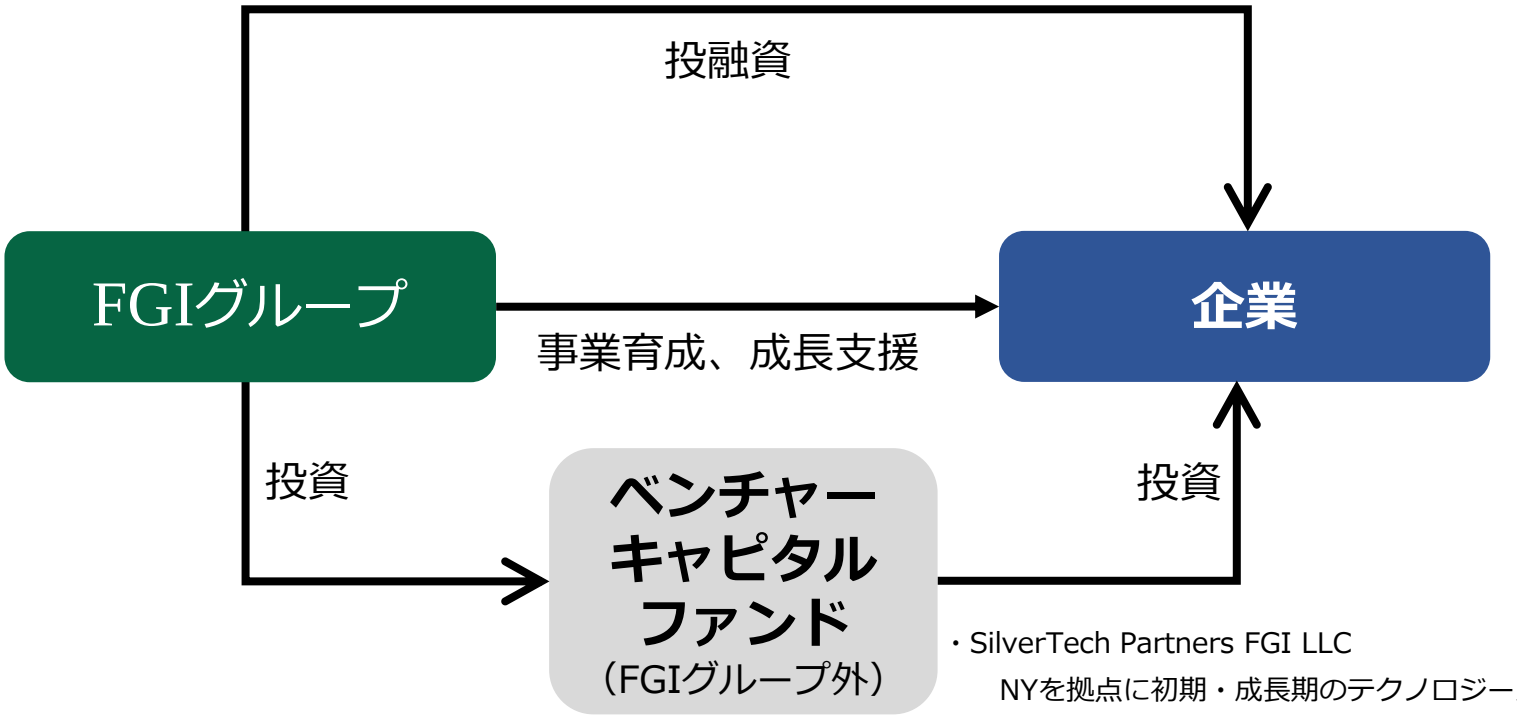
- 資産担保証券を格付けしたKroll Bond Rating Agencyのレポート※には、Zephyrusの航空機リース事業について、SGIより継続的な技術サポート、マーケットに関する知見等を提供されていることが記載され、このSGIとの関係をクレジット・ポジティブであるとコメント。

※ 2018年10月9日付 Zephyrus Capital Aviation Partners 2018－1 Ltd New Issue Report

Copyright© FinTech Global Incorporated

企業への投融資を行い、その後、成長を支援。

配当や、企業価値向上後のエグジット（株式売却等）による収益を狙う。



・SilverTech Partners FGI LLC
　NYを拠点に初期・成長期のテクノロジーカンパニー等に投資（2017年～）

・Newton Biocaptal I SA
　ライフサイエンス企業への投資（2019年～）

Copyright© FinTech Global Incorporated

投資先企業抜粋（直接投資）

企業投資

Tube ㈱

TUBE

中部国際空港旅客ビル内の
宿泊施設「TUBE Sq」運営

Queen Bee Capital ㈱

QUEEN BEE CAPITAL

インターネットによる
通貨両替・海外送金サービス

㈱ムーミン物語（連結子会社）

MOOMIN monogatari

ムーミン・テーマパークの運営

アクシスモーション㈱

AXIS MOTION

不動産管理会社向け
アウトソーシングサービス

MDT INNOVATIONS Sdn Bhd

mdt

マレーシアのRFIDタグ・リーダーの
世界トップ５のメーカー

Mt.Cedar㈱

CAMPFIRED GRILL BEEF STEAK TahomaFuji

セントレア「FLIGHT OF DREAMS」で薪焼きステーキ専門店『CAMPFIRED GRILL BEEF STEAK TahomaFuji』を運営

㈱アダコテック（持分法適用関連会社）

Adacotech
Adaptive Technology for Cognition

産業技術総合研究所が開発した
静止画・動画等の映像を認識する
技術の事業化。

㈱美作国電力

みまさかのくに 美作国電力

「地域で生まれたエネルギーを地域で消費する仕組みを創る」ことを目的として2018年設立。

エアアジア・ジャパン㈱

AirAsia.com

アジア最大のLLC・エアアジアグループの一員

㈱レンブラントホールディングス

REMBRANDT HOLDINGS

ホテル事業・ゴルフ事業、
不動産事業、再生事業

ミュージックセキュリティーズ㈱

Ms music securities

投資型「クラウドファンディング」
の先駆的企業

ジャパン・トゥエンティワン㈱

j21Corporation

イスラエル発の先進テクノロジーの
導入・市場開発

Copyright© FinTech Global Incorporated

公共コンサルティング事業

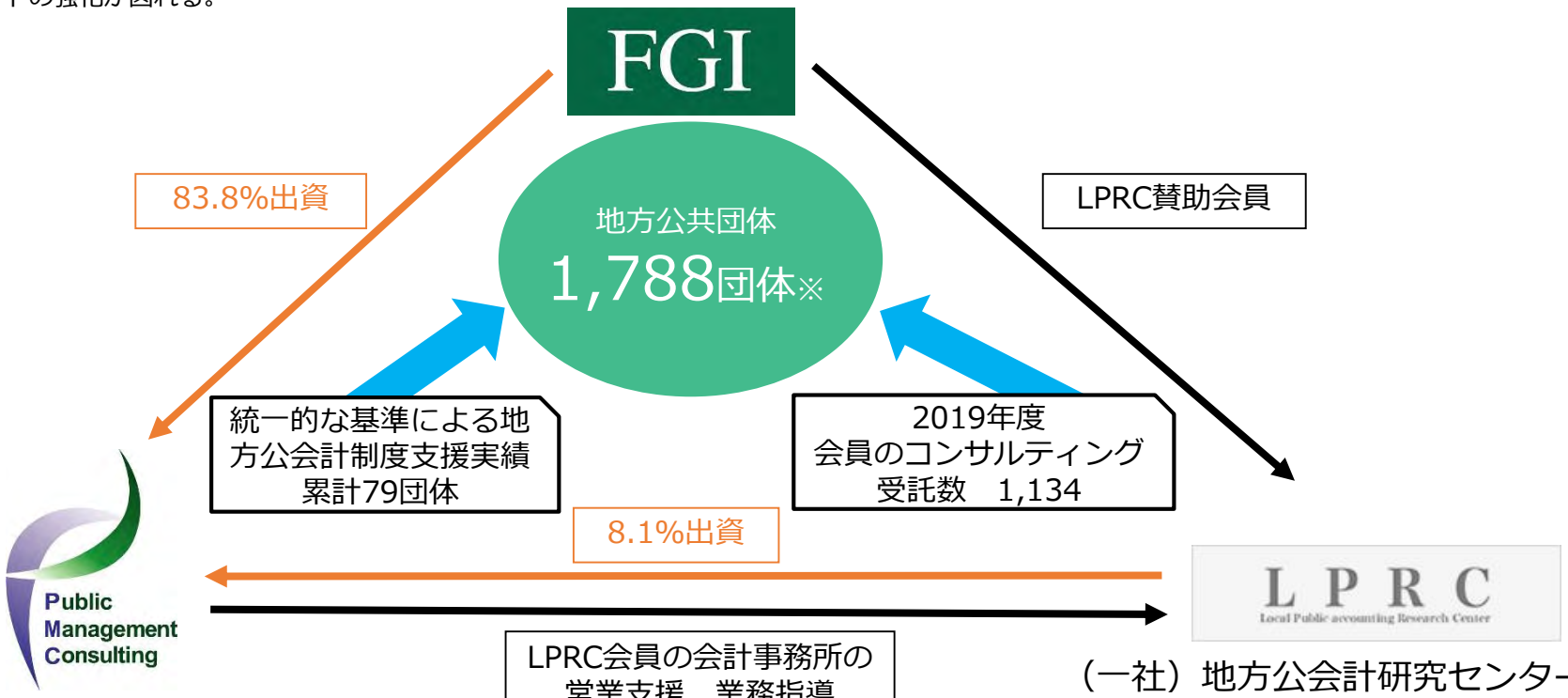
Copyright© FinTech Global Incorporated

公共コンサルティング事業 – 公会計事業

■ 公会計コンサルティングにより、新公会計制度（注）の運用を支援

- ✓ 子会社㈱パブリック・マネジメント・コンサルティングが、地方公会計研究センターとともに新公会計制度の運用を支援。
- ✓ 公会計コンサルを基盤に、地方公共団体のインフラ資産更新問題を解決する資産証券化等に取組む方針。

（注）新公会計制度とは、複式簿記・発生主義という企業会計の考え方を取り入れた会計制度。これまでの官庁会計だけでは把握できなかった資産、負債などのストック情報や、将来の債権・債務、減価償却費などを含めた事業ごとなどのフルコスト情報が把握できるようになり、説明責任の達成・マネジメントの強化が図れる。



㈱パブリック・マネジメント・コンサルティング (PMC)

※都道府県、市町村、特別区の数の合計（2020年2月末）
地方公共団体の組合、財産区、地方開発事業団（合計約5,400団体）は含まず。

（一社）地方公会計研究センター
http://www.lprc.or.jp/

地方公会計及び地方公営企業会計に関し、会計処理方針の検討、会計基準の提案を行うこと目的とする団体
（2020年２月末現在の正会員は47の会計事務所）

Copyright© FinTech Global Incorporated

地方公会計の対象分野拡大。活用フェーズへ

今後の地方財政に対応したコンサル需要発生

財政の悪化に対応すべく、財政マネジメント強化のため、地方公会計や公共施設の計画的管理等の整備に関する政府の施策が打ち出されています。
FGIグループは、これらに対応するコンサルティング受託体制を整えています。

政府の施策と今後の見通し

●統一的な基準による財務書類等作成
全自治体が対象（2017年度期限以後、作成継続、財務分析・活用へ）

●個別施設毎の長寿命化計画の策定
公共施設個別の点検・診断、維持管理・更新等の対策、対策実施時期、費用を定める。公共施設等総合管理計画の見直しへ（2020年度期限）

●PPP/PFI導入の推進
人口20万人以上の自治体、事業費総額10億円以上
または年間運営費１億円以上の事業は原則PPP/PFIで行う

●下水道事業等の公営企業会計適用の義務化
人口3万人未満自治体の簡易水道・下水道は2023年度予算・決算まで

●公営企業の経営戦略策定
公営企業の「見える化」。すべての事業が策定対象（2020年度期限）

●第三セクター等の経営健全化
総務省が2014年「第三セクター等の経営健全化等に関する指針」を策定
地方公共団体の財政的リスク等を毎年度調査。改革等先進事例集を公表

コンサル受託増加

Copyright© FinTech Global Incorporated

エンタテインメント・サービス事業

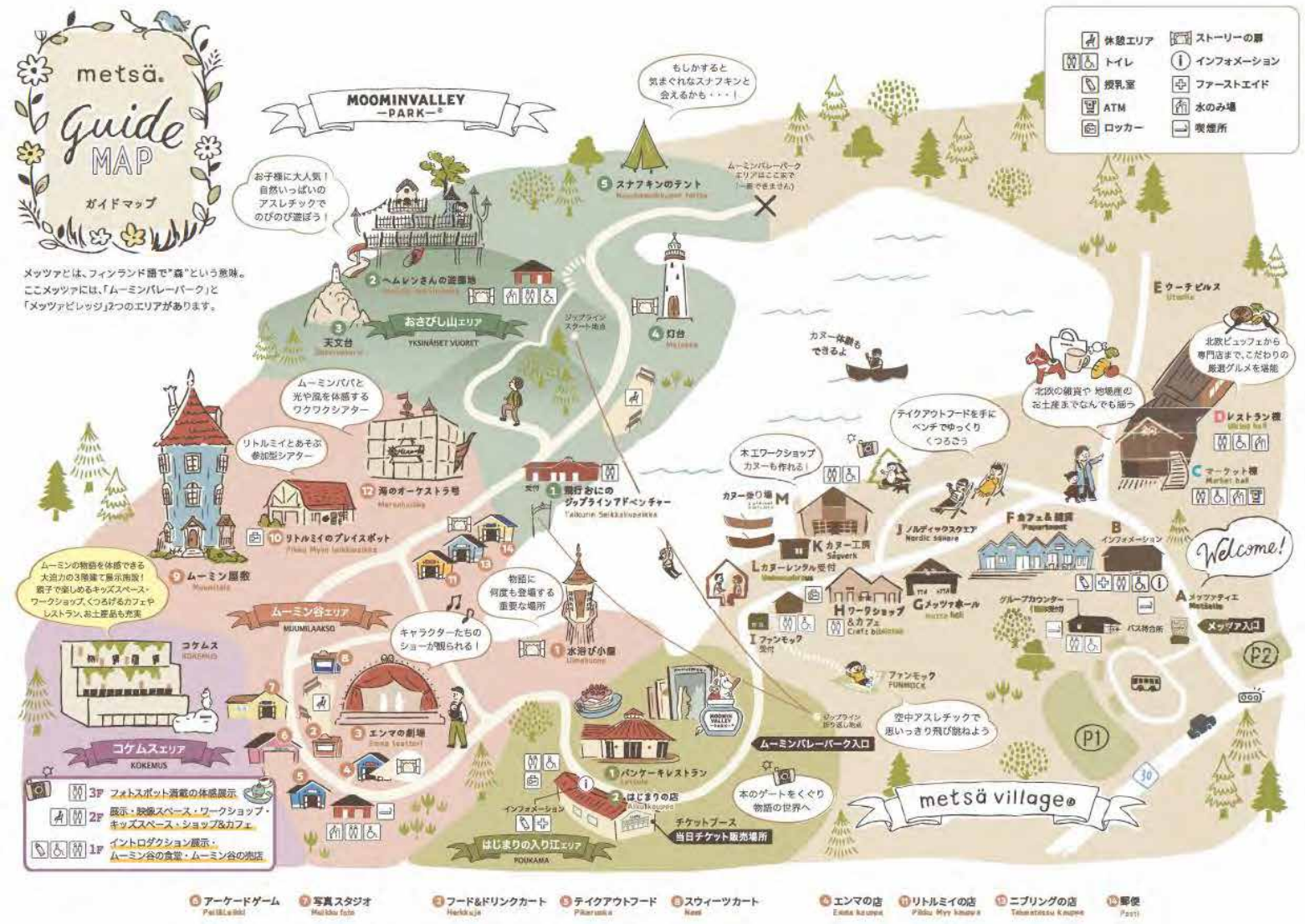
・メッツァ事業
・ムーミン・ライセンス事業

Copyright© FinTech Global Incorporated

２つのゾーンからなる「メッツァ」　2019年3月に全面開業

北欧のライフスタイルを体験できるゾーン**「メッツァビレッジ」　2018年11月9日開業**

ムーミンの物語を主題としたゾーン**「ムーミンバレーパーク」　2019年3月16日開業**



©Moomin Characters ™

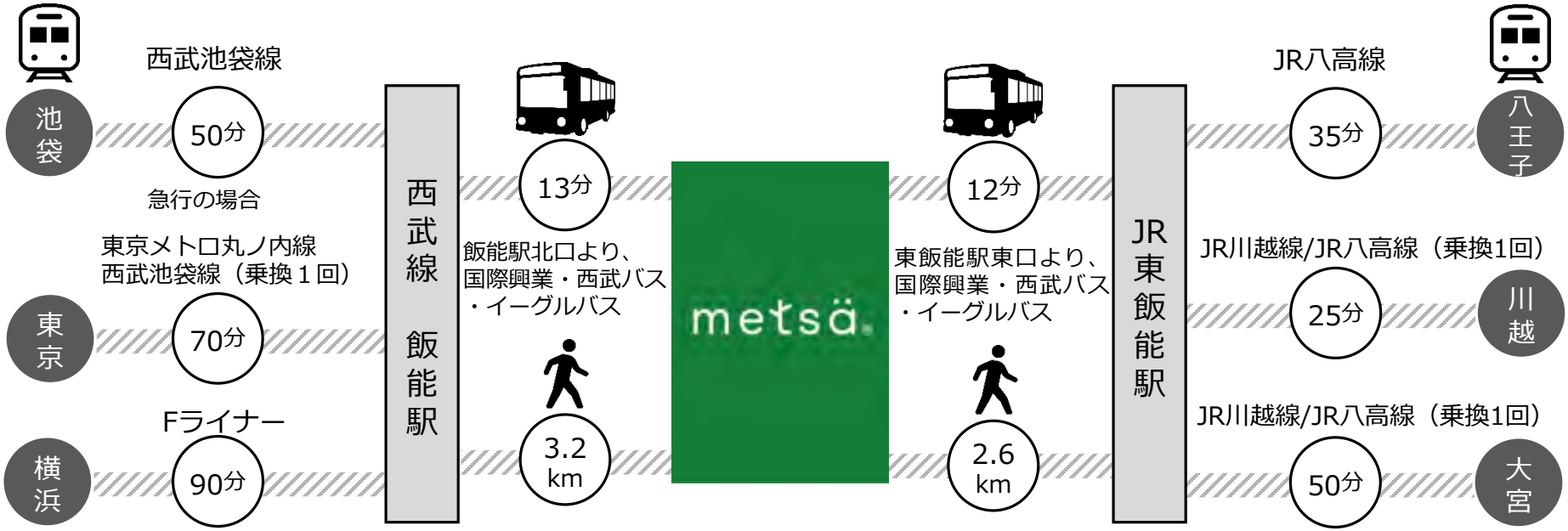
Copyright© FinTech Global Incorporated

アクセス

メッツァには、電車・車とも、スムーズにアクセス

＜電車＞

飯能駅、または東飯能駅を利用。



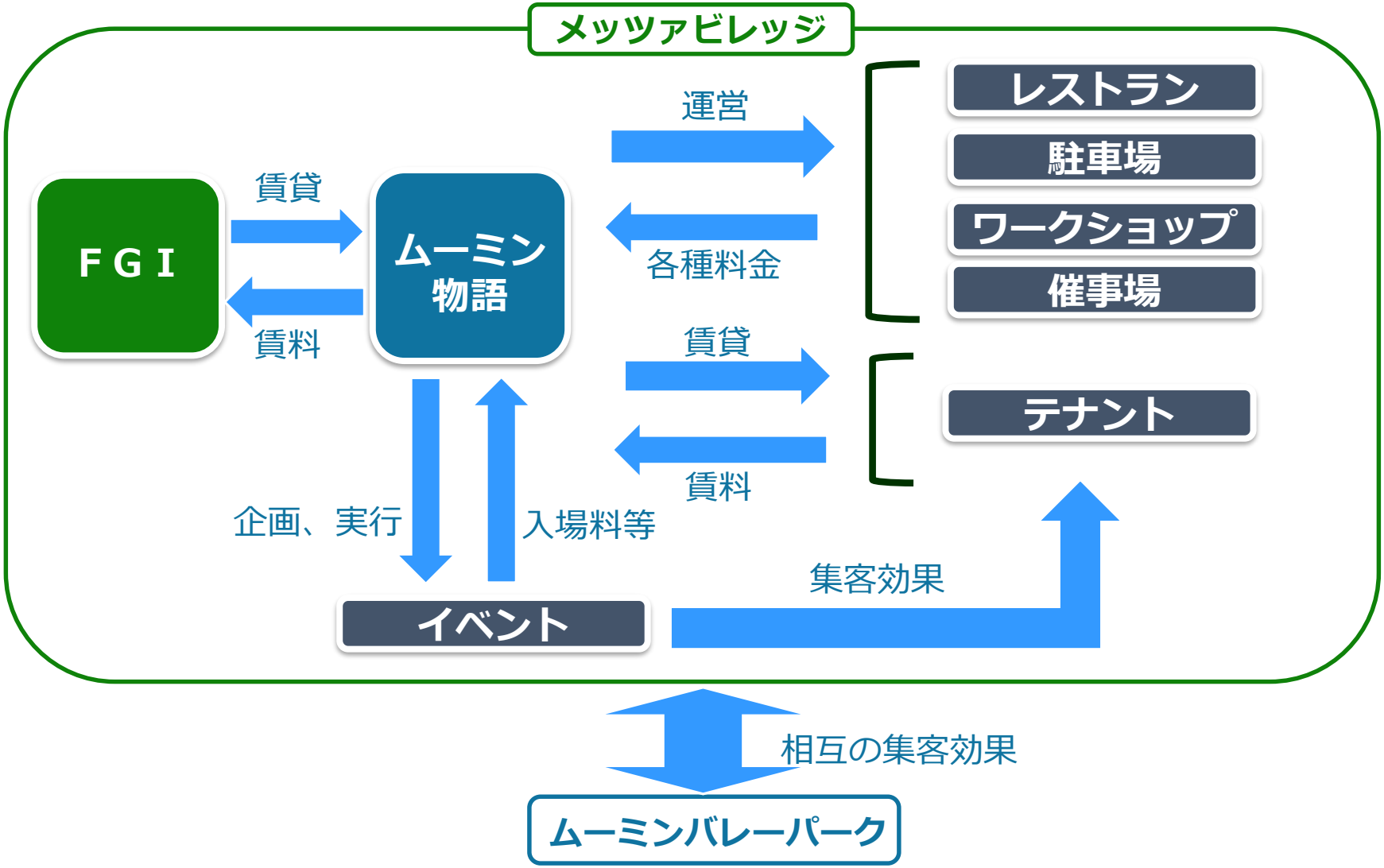
＜車＞

圏央道　狭山日高インターチェンジから県道262号線経由5.4km（約12分）
圏央道　青梅インターチェンジから県道218号線経由約11km (約30分)

Copyright© FinTech Global Incorporated

メッツァ事業 ― 収益構造（メッツァビレッジ – 2018年11月9日開業）

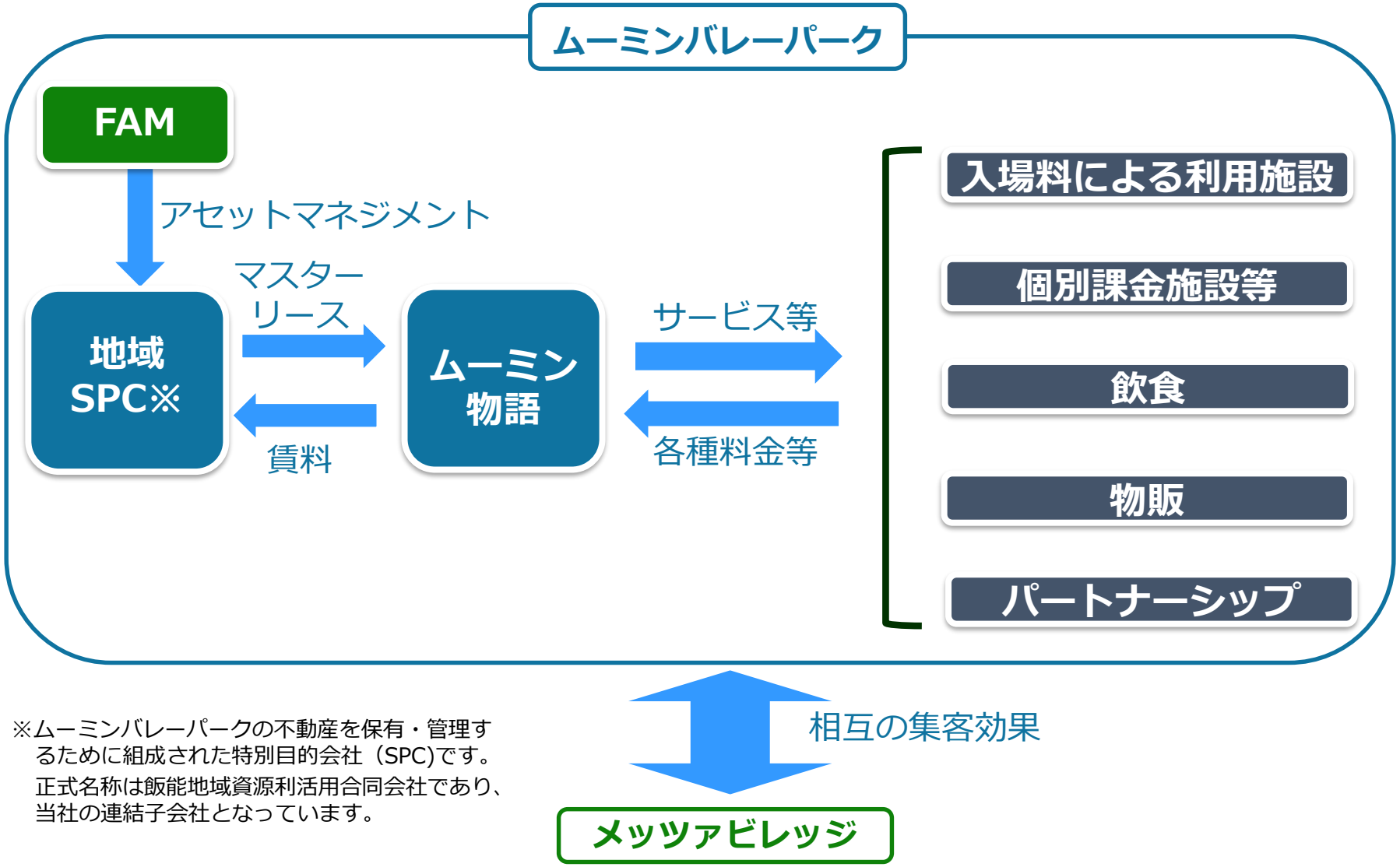
FGIがムーミン物語にマスターリース。ムーミン物語が施設を自社運営、又はテナントに賃貸。
ムーミンバレーパークに加えてメッツァビレッジも一体として運営を行うことで、メッツァ全体としての魅力を高め、集客の最大化及び事業収益の多様化を図る。



Copyright© FinTech Global Incorporated

メッツァ事業 ー 収益構造（ムーミンバレーパーク – 2019年3月16日開業）

ムーミン物語がテーマパーク運営、飲食事業及び物販事業を行う。その他、パートナーシップ収入もあり。特別目的会社の地域SPCが不動産をムーミン物語に賃貸。



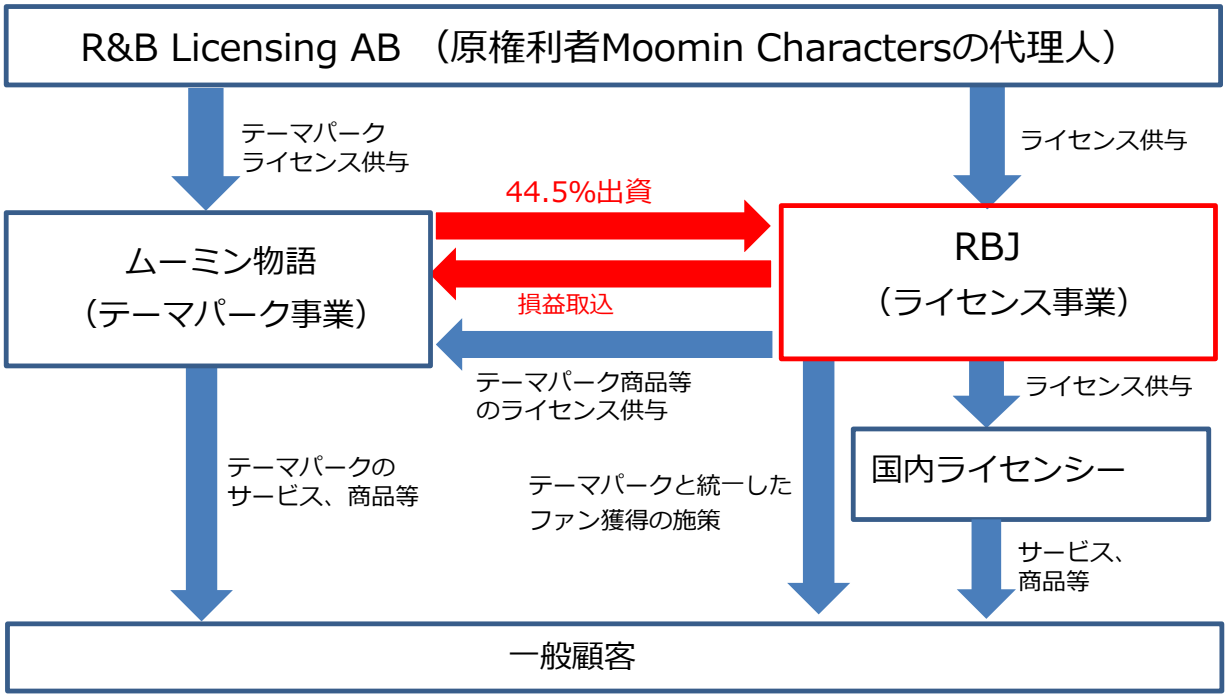
※ムーミンバレーパークの不動産を保有・管理するために組成された特別目的会社（SPC)です。
正式名称は飯能地域資源利活用合同会社であり、当社の連結子会社となっています。

Copyright© FinTech Global Incorporated

ムーミン・ライセンス事業

ファン獲得のための統一した施策により、メッツァ事業とライセンス事業を拡大

- ✓ **連結子会社㈱ライツ・アンド・ブランズ（RBJ）**（ムーミン物語が44.5%出資）は、日本のムーミンのライセンスを一括管理。
- ✓ ライセンス事業、テーマパーク事業が統一した戦略をとり、また中長期的な視野から事業領域を積極的に開拓することで、ムーミンの認知度とブランドバリューを一層向上させ、新たなファンを取り込み更なる市場の拡大を目指す。
- ✓ メッツァ事業では、RBJが運営するムーミン公式サイトとの一体プロモーション等を実行。



Copyright© FinTech Global Incorporated

ムーミン・ライセンス事業

RBJは、日本におけるムーミンキャラクターのサブライセンサーとして、
ライセンシーを通じて、ムーミン商品・エンタテイメントを広くお届け
ムーミンの認知度とブランドバリューの更なる向上のため、様々な取組みを展開

ムーミン公式サイト運営



ムーミン情報、ライセンシーのムーミン事業を集約してムーミンの魅力を紹介。
新たなファン層を醸成する。

2020年のムーミン75周年を記念した
特集ページを設置。

ムーミン展への協力



© Moomin Characters ™

2019年４月より原画展「ムーミン展THE ART AND THE STORY」が全国巡回。

来場者数は、東京、大分、石川、名古屋までの４会場で約24万人となる。今後、岩手、大阪、札幌、熊本、静岡へ巡回予定。

Copyright© FinTech Global Incorporated

ムーミン・ライセンス事業　アニメ放映権販売

RBJは、保有する４K制作の新作テレビアニメ「ムーミン谷のなかまたち」のアニメ放映権を販売

NHK BS4Kでの放映に加え、DVD化、オンデマンド配信も順次行われています。



Copyright© FinTech Global Incorporated

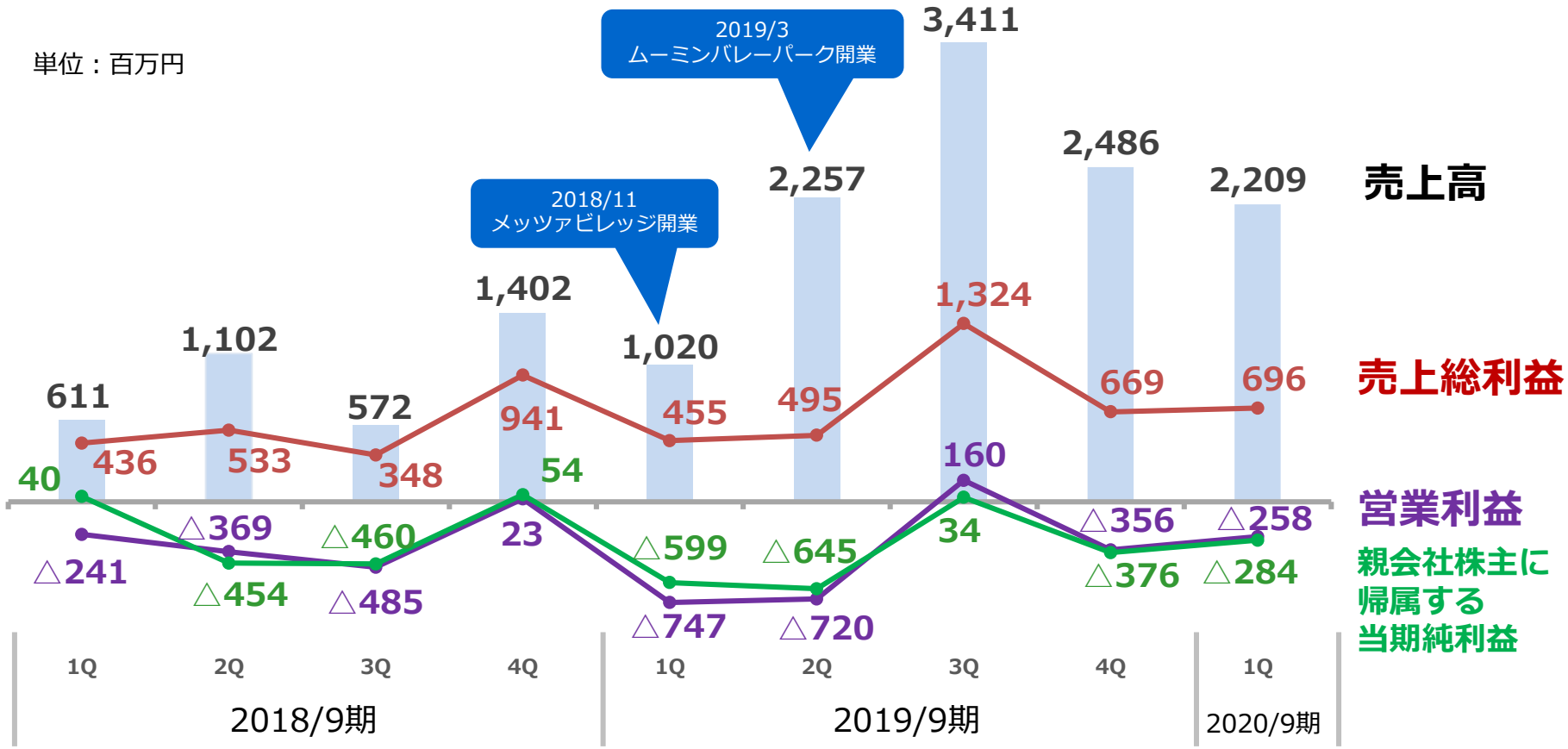
業績

Copyright© FinTech Global Incorporated

業績推移

（2019/9期）メッツァ開業により、売上高は大幅増。
開業準備費用の負担、投資銀行事業のアセット投資回収遅れ・投資先減損等により、営業損失計上。

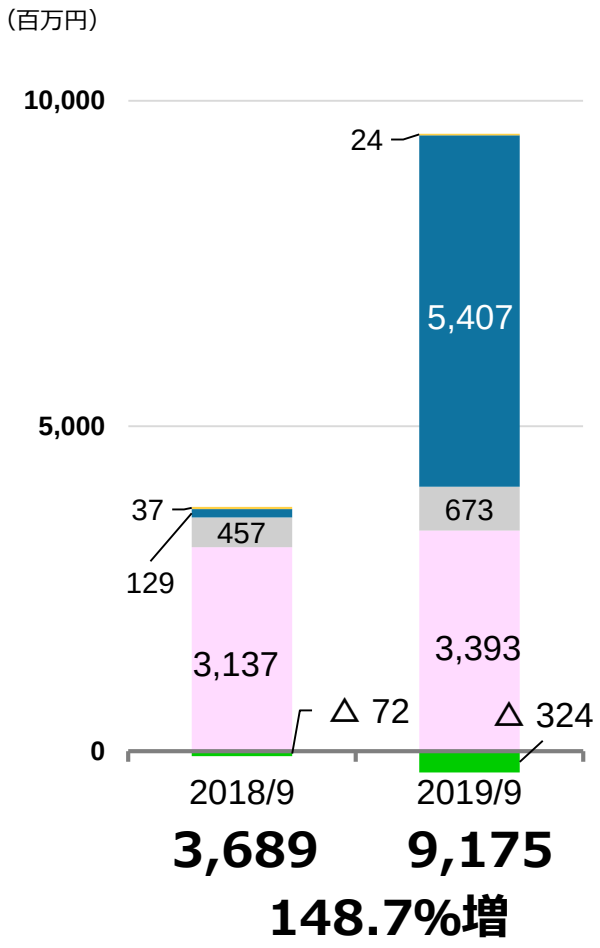
（2020/9期1Q） 投資銀行事業は堅調に推移。
メッツァが2019年10月に悪天候の影響を受けるも、各種施策により来園者数は回復。
コスト・コントロールにより、損益改善。



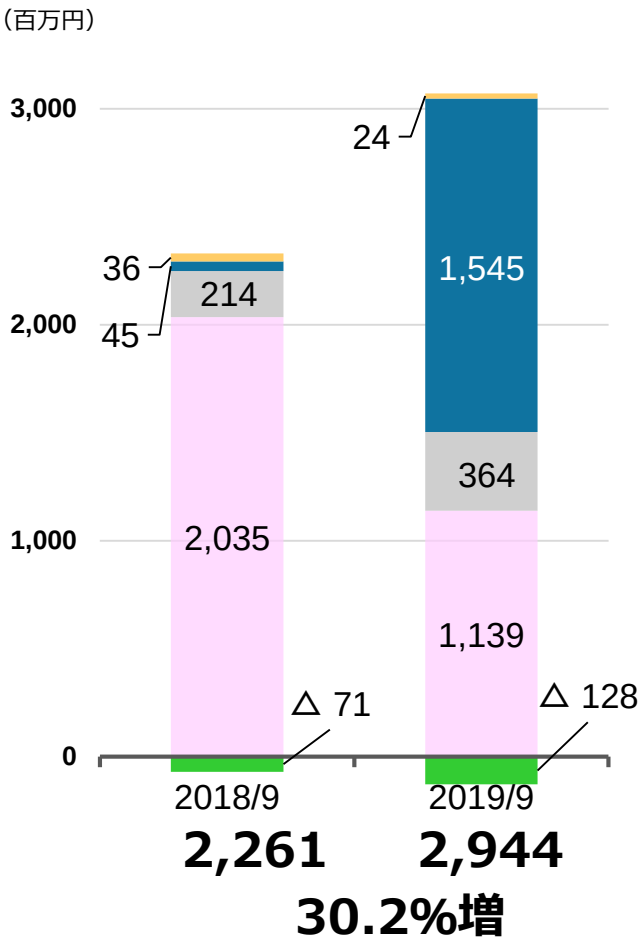
Copyright© FinTech Global Incorporated

セグメント別業績 -2019/9期

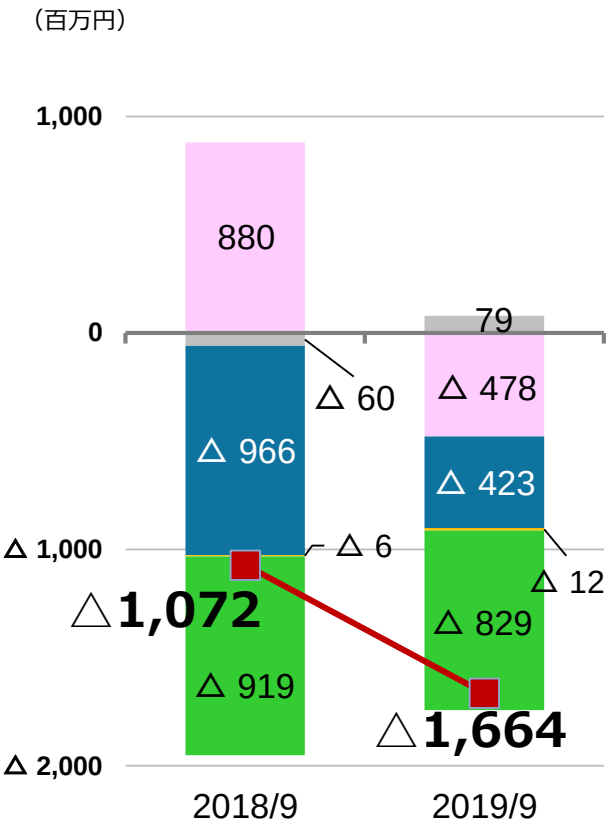
売上高



売上総利益



営業利益

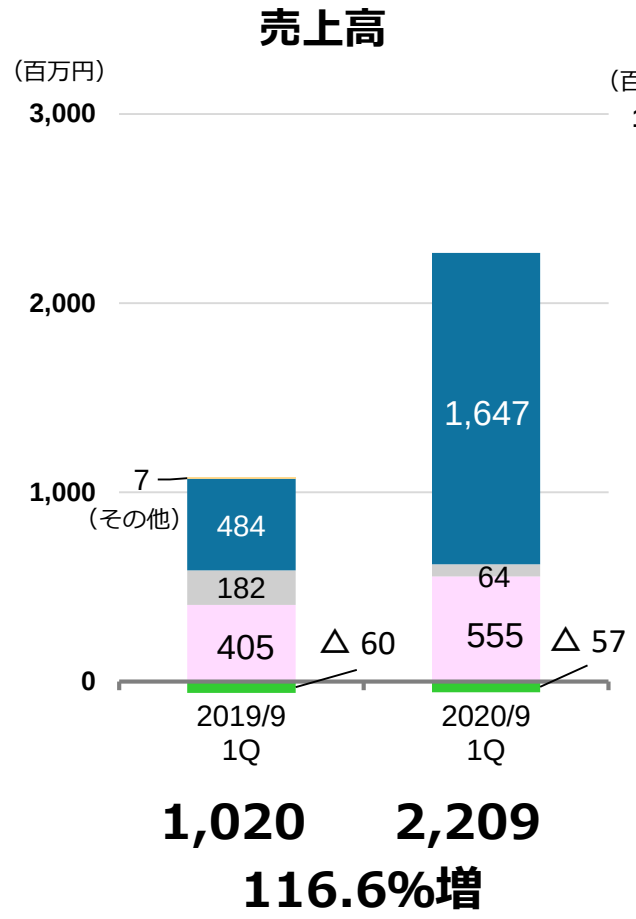


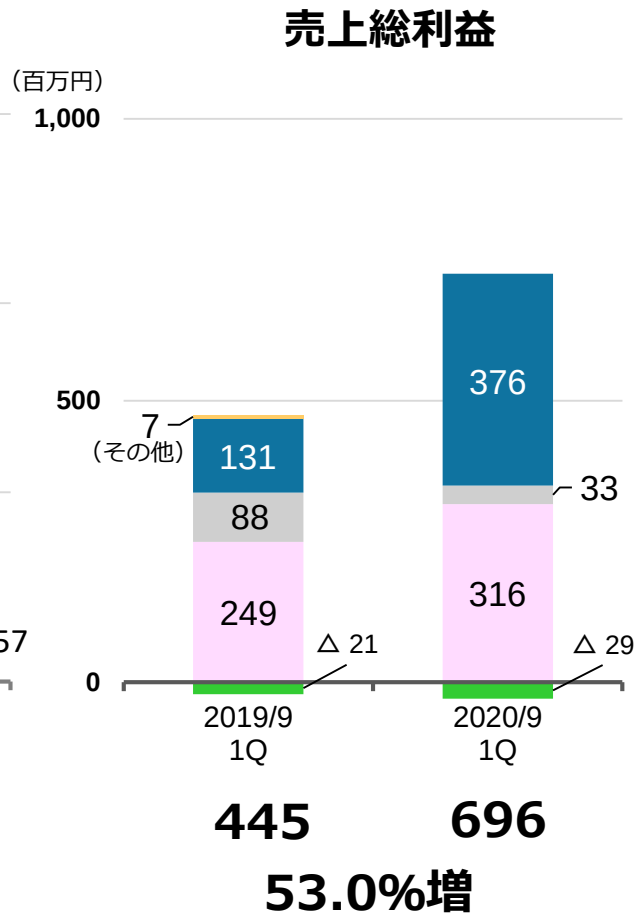
（注）セグメント別内訳は、他のセグメントとの取引を消去しない数値を使用。

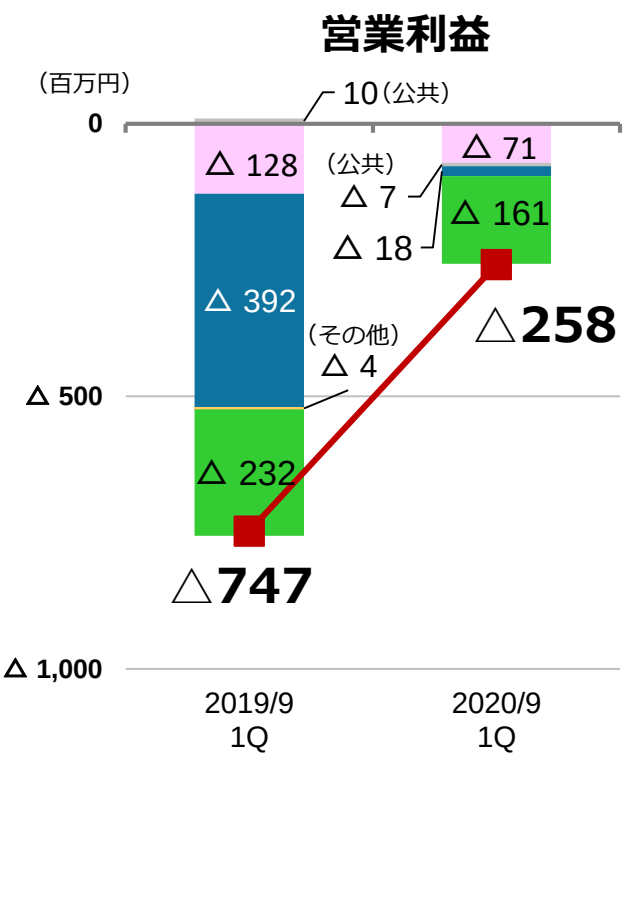
投資銀行事業　公共コンサルティング事業　エンタテインメント・サービス事業　その他　全社費用または取引消去

Copyright© FinTech Global Incorporated

セグメント別業績 – 2020/9期1Q







(注) セグメント別内訳は、他のセグメントとの取引を消去しない数値を使用。

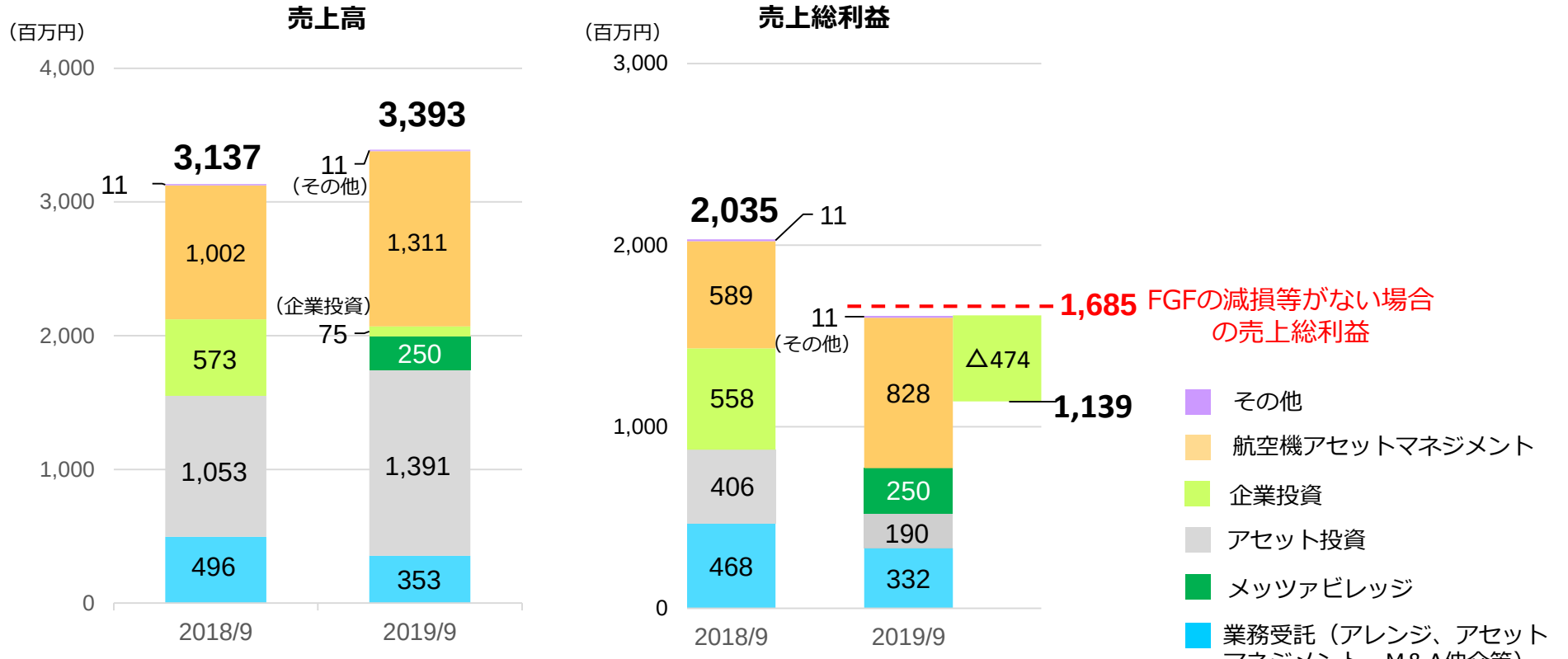
投資銀行事業　公共コンサルティング事業　エンタテインメント・サービス事業　その他　全社費用または取引消去

Copyright© FinTech Global Incorporated

投資銀行事業ー業務別売上高、売上総利益ー2019/9期

企業投資の減損等により、売上総利益は前年同期比53.1%減

- 業務受託による手数料売上は、不動産AM・仲介は減少するも、M&A仲介が増加する。
- ムーミン物語に対するメッツァビレッジのマスターリースによる売上を計上（メッツァビレッジ）。
- アセット投資は回収増により売上増加するも、利益率は低下。
- 企業投資はFGFの新薬開発プロジェクト成功による売上があるも、同ファンドで545百万円の減損等計上。
- 前期2Qから連結した子会社による航空機アセットマネジメントは、堅調に推移。



（注）エンタテインメント・サービス事業から投資銀行事業が受け取るメッツァビレッジの賃料などの**セグメント間の内部売上高は、消去しない数値**を使用。

Copyright© FinTech Global Incorporated

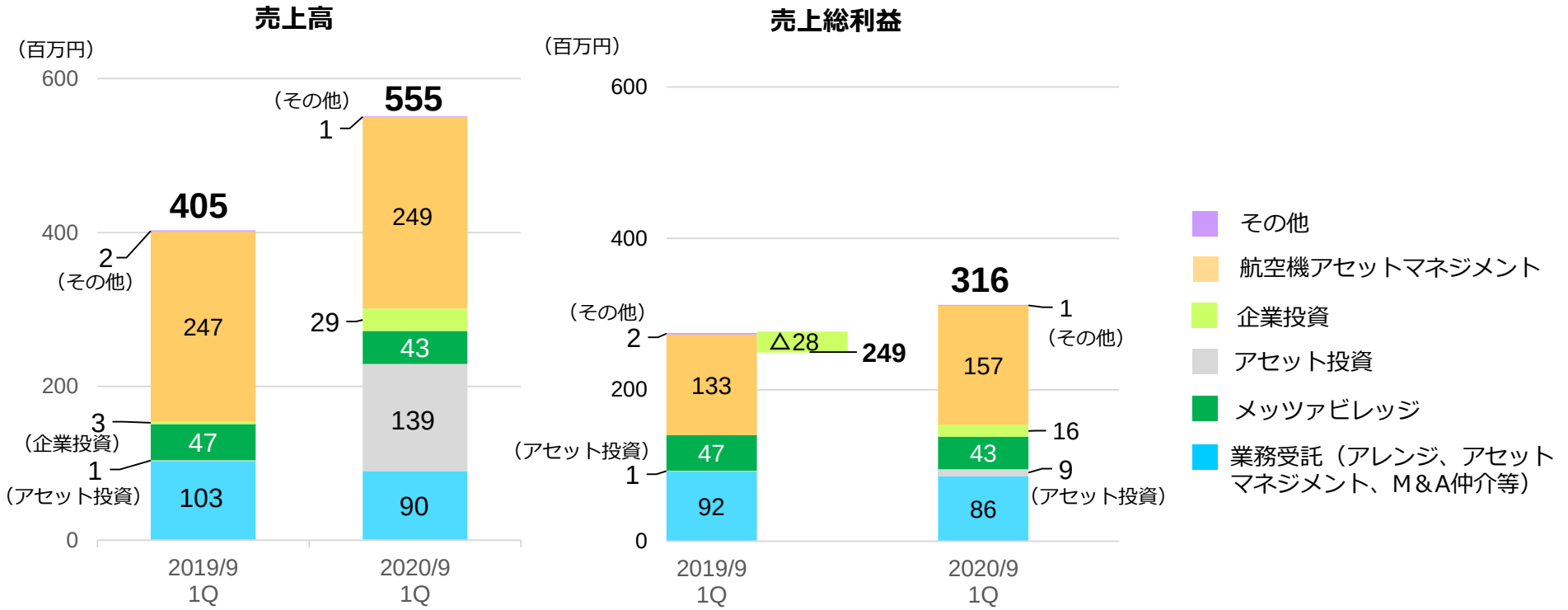
投資銀行事業ー業務別売上高、売上総利益ー2020/9期1Q

2020/9期１Qは企業投資の評価損の影響がなくなり、売上総利益は26.９%増

・業務受託、航空機アセットマネジメントが堅調に推移。

・アセット投資は回収増により売上高は増加。

・企業投資はファンド投資で投資回収売上を計上。

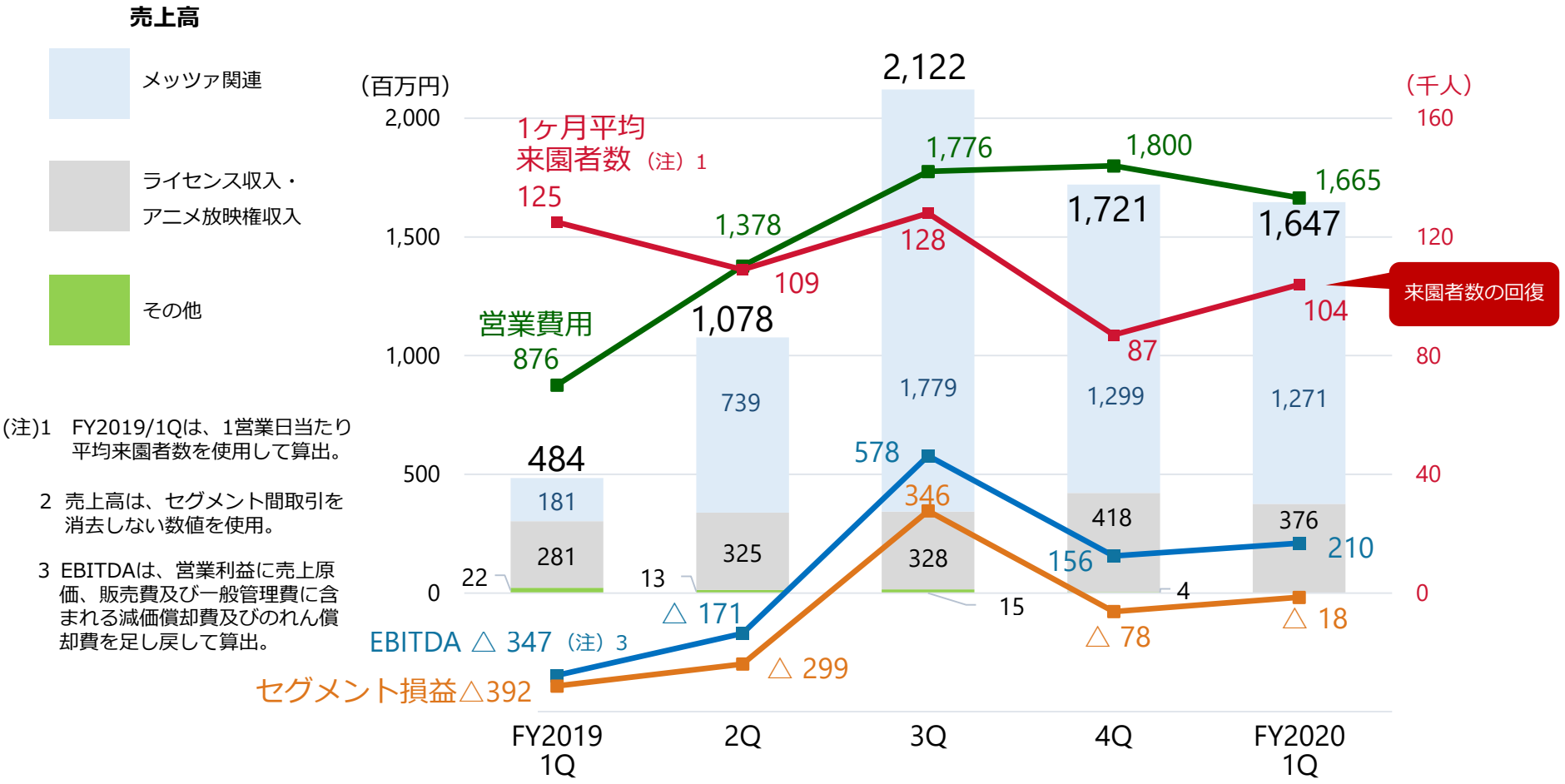


(注) エンタテインメント・サービス事業から投資銀行事業が受け取るメッツァビレッジの賃料などの**セグメント間の内部売上高は、消去しない数値**を使用。

Copyright© FinTech Global Incorporated

エンタテインメント・サービス事業 ー 業績

メッツァ来園者数は、2019年11月から開始した各種施策の効果により、2020/9期1Qに回復。



(注)1　FY2019/1Qは、1営業日当たり平均来園者数を使用して算出。

2　売上高は、セグメント間取引を消去しない数値を使用。

3　EBITDAは、営業利益に売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費及びのれん償却費を足し戻して算出。

Copyright© FinTech Global Incorporated

今後の見通し

Copyright© FinTech Global Incorporated

新型コロナウイルス感染症拡大によるメッツァへの影響と対応

臨時休園

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、

3/2から3/13の12日間、ムーミンバレーパークを臨時休園。

様々な感染予防策・拡散防止策を徹底した上で、 3/14に営業を再開。

ムーミンバレーパークにおける感染予防・拡散防止策

- 来園者の検温（37.5度以上の発熱がある方は入園を控えていただく）
- 混雑時の入園制限
- ポンプ式消毒アルコールの設置場所の大幅増加
- 専任の消毒員による、手すり、ベンチなどの消毒
- 屋内施設の換気・清掃の徹底
- その他、各施設に応じた対策（屋内施設の人数制限、座席間隔を空けるなど）
- スタッフも、日々の体温測定等体調管理を徹底

Copyright© FinTech Global Incorporated

・中期経営計画の見直しを取りやめ
・2020/9期 連結業績予想の公表延期を決定(2020/3/19)

ムーミンバレーパークは営業を再開したが、新型コロナウイルス感染症はいまだ収束時期の目途がたたず、不透明な状況。

中期経営計画の見直し・2020/9期業績予想を2020年３月頃を目途に策定・公表予定であったが、今後の状況により再度臨時休園する事態も想定され、合理的な事業計画の策定・業績予想値の算出は困難。

2020/3/19に、中期経営計画の見直しを一旦取りやめるとともに
2020年９月期連結業績予想の公表延期を決定。

Copyright© FinTech Global Incorporated

投資銀行事業

投資回収

- アセット投資・・・保有物件の売却活動を推進中。当期中の収益化を企図。
- 企業投資・・・・・投資先のIT企業数社のエグジットを検討中。

メッツァビレッジ収益力向上策の検討

- 遊休地活用や新規テナント等により、収益力をさらに向上させる方策を検討。
- 収益力を向上させた上で、証券化などを検討。

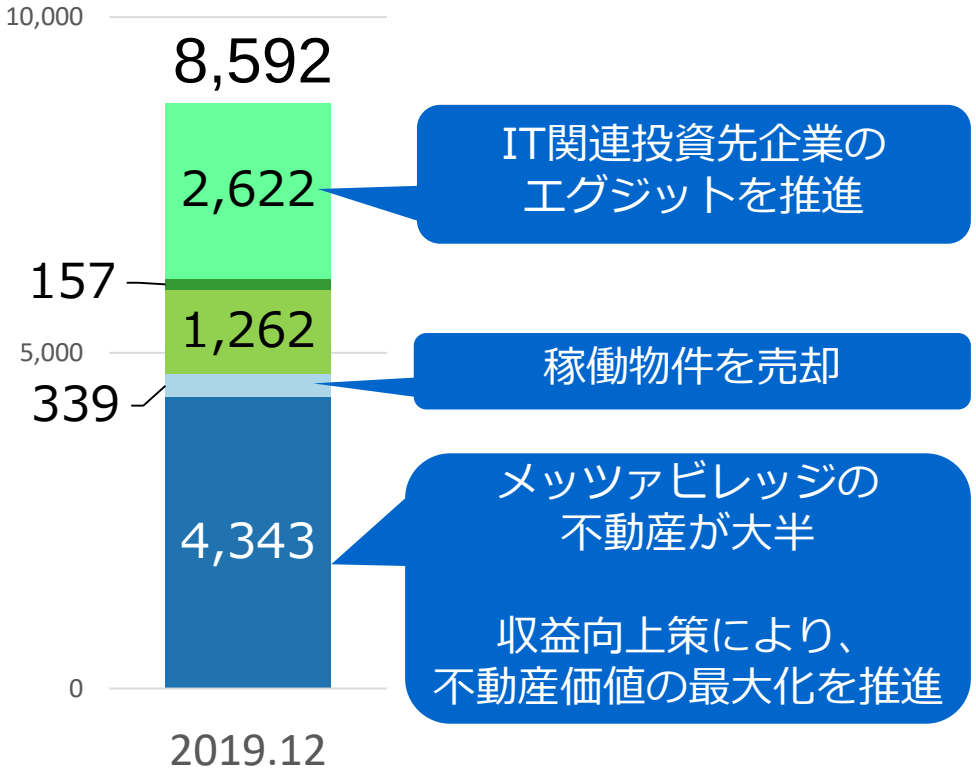
Copyright© FinTech Global Incorporated

投資銀行事業

投融資の半分を占めるメッツァビレッジの投資回収最大化が中期的な課題

FGI、FGTの投融資（子会社への出資を含む）と投融資回収見込

（単位：百万円）



（注）FGI、FGT間の出資・貸付は、含めず。

プリンシパルインベストメント
ベンチャーキャピタルファンドへの投資を除く営業投資有価証券、投資有価証券、関係会社株式、関係会社出資金、出資金の合計額。

ベンチャーキャピタルファンド
FinTech GIMV Fund（FGF)、他2ファンドへの投資

企業融資
営業貸付金、子会社への短期貸付金の合計額。全額引当している債権は含めないが、子会社貸付は全額計上。

不動産等(投資銀行事業)
投資銀行事業における運用不動産、開発用不動産。BSでは仕掛販売用不動産・販売用不動産に計上。

不動産等(メッツァ)
メッツァにおける不動産。メッツァビレッジの不動産は仕掛販売用不動産・販売用不動産に計上。ムーミンバレーパークの土地は、法的には地域SPCに譲渡しているが会計上は当社固定資産に計上しているため、当該金額に含めている。

Copyright© FinTech Global Incorporated

今後の見通し

エンタテインメント・サービス事業

顧客満足度の向上を通じた収益向上

ー 満足度アップにより、来園者数を拡大ー





WINTER WONDERLAND
in MOOMINVALLEY PARK
(3/1まで開催)
ムーミン屋敷のプロジェクションマッピングによる
ショーなど。



エンマの劇場
3/14より新しいショーが
スタート。

コンテンツ拡充
・ソフト、ハードとも
コンテンツを拡充

イベント開催
・魅力あるイベントの
定期的な実施

サービス充実
・平日の駐車料金無料キャンペーン
・チケット券種、内容の改定

2019/11/30から１デーパスの販売を開始。

サービス・イベント・コンテンツの充実を踏まえ、
2020/3/14にチケット内容および料金を改定。
（チケット内容改定の概要）
・１デーパスで利用できる施設の追加
・前売りチケットの値引き販売
・年間パスポートの販売

改定後のチケット内容および料金はメッツァ公式サイトを参照 https://metsa-hanno.com/fee/#ticket



ストーリーの扉
ムーミンのエピソードを数分間
の映像に。2019/11/30から園
内各所に設置。2020年春にも
新設。



ストーリーガイド
ムーミンのストーリーのガ
イドをパーク内で集める。
2019/11/30より配布。

©Moomin Characters ™

Copyright© FinTech Global Incorporated

IR会社説明会に関するご質問について

Copyright© FinTech Global Incorporated

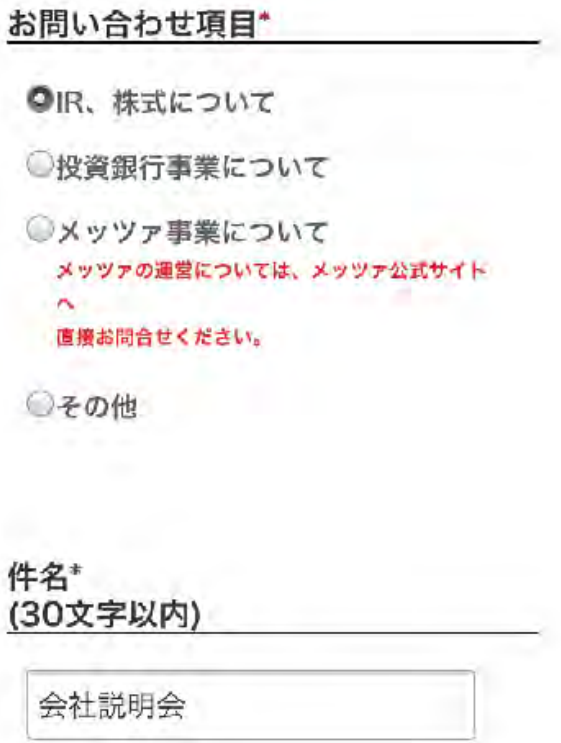
ご質問と回答掲載について

今回の説明について2020年3月30日午後1時までご質問を受け付け、後日主なご質問と回答をウェブ上に掲載する予定です。掲載する質問内容は要約し、お名前・メールアドレス等の個人情報等は公開いたしません。ご質問方法は、以下のとおりです。なお、お電話でのご質問は受け付けておりませんのでご了解願います。

① FGIウエブサイト(http://fgi.co.jp/)上部のお問い合わせから「お問い合わせフォーム」にアクセス。
（以下はスマートフォン画面）



② 「お問い合わせフォーム」に必要事項、内容を入力。お問い合わせ項目は、「IR、株式について」を選択して、件名は「会社説明会」としてください。フォーム下部の「確認画面に進む」にて、入力内容の確認画面に進み、確認後、送信してください。



※問い合わせフォームにご入力いただきました個人情報は、IR会社説明会のご質問回答のために適正に利用させていただきます。

Copyright© FinTech Global Incorporated

参考資料

Copyright© FinTech Global Incorporated

連結経営指標等の推移

		2015年 9月期	2016年 9月期	2017年 9月期	2018年 9月期	2019年 9月期	2020年9月期 第1四半期
売上高	(百万円)	5,429	7,485	7,182	3,689	9,175	2,209
売上総利益	(百万円)	2,495	1,496	1,626	2,261	2,944	696
営業利益又は営業損失(△)	(百万円)	115	△ 1,031	△ 1,319	△ 1,072	△ 1,664	△ 258
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	237	△ 1,369	△ 1,341	△ 1,227	△ 1,850	△ 297
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	(百万円)	224	△ 1,384	△ 1,358	△ 820	△ 1,586	△ 284
純資産	(百万円)	7,879	6,312	5,326	8,551	8,873	8,555
総資産	(百万円)	11,958	10,975	12,932	14,016	19,025	18,701
１株当たり純資産	(円)	48.31	38.66	29.64	39.31	37.03	35.56
１株当たり当期純利益 又は当期純損失(△)	(円)	1.48	△ 8.56	△ 8.39	△ 4.79	△ 8.08	△ 1.42
潜在株式調整後 １株当たり当期純利益	(円)	1.47	–	–	–	–	–
自己資本比率	(%)	65.4	57.0	37.1	52.2	39.1	38.2
自己資本利益率	(%)	3.4	△ 19.7	△ 24.6	△ 13.5	△ 21.5	–
株価収益率	(倍)	84.7	–	–	–	–	–
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 1,791	△ 1,305	△1,153	△ 2,978	△ 2,604	–
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 644	△ 302	△ 1,026	△ 2,008	△ 4,543	–
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	4,761	△ 751	2,937	5,771	5,710	–
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	4,612	2,240	2,969	3,847	2,513	–
従業員数(連結) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	117(8)	114(20)	143(27)	156(47)	167(262)	169(273)
従業員数（単体） （外、平均臨時雇用者数）	(人)	38(3)	45(8)	40(6)	38(5)	39(5)	33(1)

Copyright© FinTech Global Incorporated

免責条項

本資料は、当社およびFGIグループに関する情報の提供を目的としたものであり、有価証券にかかる売買、金融商品取引に係る契約等いかなる商品の勧誘をするものではありません。

本資料に記載されている、各種資料・文書には、当社またはFGIグループに関連する見通し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外の事実を記載しているものが含まれていることがあります。これらの歴史的事実以外の事実（以下、「将来情報」ということがあります）の記載は、当社またはFGIグループが入手した情報に基づく、当該資料・文書の日付（または当該資料・文書に別途明示された日付）時点における予測、期待、想定、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・目標等を策定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・目標設定等を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし事実または前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。したがって、これらの記述ないし事実または前提（仮定）が、客観的に不正確であり、将来実現しないという可能性がありますが、その原因となりうるリスクや要因は多数あります。将来情報は、将来発生する事象、リスク、不確実性を内包する要因を含んでおり、そうした前提は、当社またはFGIグループの実際の業務・業績に著しい悪影響を及ぼす可能性があります。かかる要因には、日本国、米国、アジアあるいはその他の国・地域における経済状況の悪化、不動産価値または株価の下落、FGIグループの貸出先の産業分野における企業破綻の増加やその他問題の発生、当社の経営統合およびコスト削減期待の実現の困難化または遅延、競争の激化、FGIグループの業務に関わる法令規則の改正、FGIグループにとって不利益となる日本国経済その他の政策の変更が含まれます。

なお、将来情報に関する記述を含む資料・文書が本資料に記載されている間においても、当該将来情報は上記のとおり当該資料・文書の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

Copyright© FinTech Global Incorporated